

Q001

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：基礎

肩こりの論点「筋緊張型の評価」について、「姿勢負荷に伴う頸肩部筋の持続的緊張」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．持続姿勢に伴う僧帽筋などの筋緊張は、一般的な肩こりの代表的要因である。
- イ．脊髄症では巧緻運動障害や歩行障害など神経症状を伴うことがある。
- ウ．心筋虚血では胸部圧迫感や労作との関連などの評価が重要である。
- エ．化膿性関節炎では強い関節痛、腫脹、発熱などが問題となる。

答え・4肢解説

正答：ア．持続姿勢に伴う僧帽筋などの筋緊張は、一般的な肩こりの代表的要因である。

ア：正しい。この説明が「姿勢負荷に伴う頸肩部筋の持続的緊張」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「頸髄圧迫による脊髄症」を評価するための説明であり、今回の「姿勢負荷に伴う頸肩部筋の持続的緊張」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「急性心筋虚血」を評価するための説明であり、今回の「姿勢負荷に伴う頸肩部筋の持続的緊張」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「化膿性肩関節炎」を評価するための説明であり、今回の「姿勢負荷に伴う頸肩部筋の持続的緊張」を支持する根拠にはならない。

総合解説：持続姿勢に伴う僧帽筋などの筋緊張は、一般的な肩こりの代表的要因である。持続姿勢に伴う僧帽筋などの筋緊張は、一般的な肩こりの代表的要因である。

Q002

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：標準

肩こりの論点「循環器レッドフラッグ」について、「鍼灸施術を優先せず、緊急性を考慮して医療機関受診を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．重篤な循環器疾患が疑われる状況で局所刺激を優先しない。
- イ．胸部症状と放散痛・冷汗は心血管系の重篤疾患を疑う所見であり、鑑別と医療連携を優先する。
- ウ．症状を鍼刺激で確認することは適切な安全評価ではない。
- エ．東洋医学的弁証より先に緊急性のある病態を除外する。

答え・4肢解説

正答：イ．胸部症状と放散痛・冷汗は心血管系の重篤疾患を疑う所見であり、鑑別と医療連携を優先する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「僧帽筋への強刺激を行い反応を見る。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸施術を優先せず、緊急性を考慮して医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「鍼灸施術を優先せず、緊急性を考慮して医療機関受診を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肩井への深刺で症状消失を確認する。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸施術を優先せず、緊急性を考慮して医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「肩こりの血瘀証として施術のみで経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸施術を優先せず、緊急性を考慮して医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：胸部症状と放散痛・冷汗は心血管系の重篤疾患を疑う所見であり、鑑別と医療連携を優先する。胸部症状と放散痛・冷汗は心血管系の重篤疾患を疑う所見であり、鑑別と医療連携を優先する。

Q003

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：基礎

肩こりの論点「僧帽筋」について、「僧帽筋上部線維」が適切とされる根拠はどれか。

ア．前脛骨筋は下腿前面の筋で足関節背屈などに関与する。

イ．大腿二頭筋は大腿後面の筋である。

ウ．僧帽筋上部線維は肩甲帯挙上や頸肩部の筋緊張に関与し、肩こりで評価対象となりやすい。

エ．長母指屈筋は前腕深層の筋である。

答え・4肢解説

正答：ウ．僧帽筋上部線維は肩甲帯挙上や頸肩部の筋緊張に関与し、肩こりで評価対象となりやすい。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「前脛骨筋」を評価するための説明であり、今回の「僧帽筋上部線維」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「大腿二頭筋」を評価するための説明であり、今回の「僧帽筋上部線維」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「僧帽筋上部線維」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「長母指屈筋」を評価するための説明であり、今回の「僧帽筋上部線維」を支持する根拠にはならない。

総合解説：僧帽筋上部線維は肩甲帯挙上や頸肩部の筋緊張に関与し、肩こりで評価対象となりやすい。僧帽筋上部線維は肩甲帯挙上や頸肩部の筋緊張に関与し、肩こりで評価対象となりやすい。

Q004

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：基礎

肩こりの論点「肝鬱気滞」について、「肝鬱気滞」が適切とされる根拠はどれか。

ア．脾気虚では食欲不振、倦怠感、軟便などが中心となる。

イ．腎陽虚では腰膝の冷え・無力感や畏寒などが中心となる。

ウ．肺陰虚では乾咳、咽頭乾燥などがみられやすい。

エ．情志による増悪、胸脇部の張り、ため息、弦脈は肝気の疏泄失調を示唆する。

答え・4肢解説

正答：エ．情志による増悪、胸脇部の張り、ため息、弦脈は肝気の疏泄失調を示唆する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝鬱気滞」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「肝鬱気滞」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「肝鬱気滞」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「肝鬱気滞」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：情志による増悪、胸脇部の張り、ため息、弦脈は肝気の疏泄失調を示唆する。情志による増悪、胸脇部の張り、ため息、弦脈は肝気の疏泄失調を示唆する。

Q005

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：標準

肩こりの論点「肝鬱気滞の治法」について、「疏肝理気を図り、頸肩部の気機を調える。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝鬱気滞では疏肝理気を基本とし、局所の緊張と気滞を調整する。
- イ．腎陽虚に対する治法であり、本症例の主病機と合わない。
- ウ．肺燥・肺陰虚に用いる治法である。
- エ．脾虚湿盛が主でない場合の第一選択ではない。

答え・4肢解説

正答：ア．肝鬱気滞では疏肝理気を基本とし、局所の緊張と気滞を調整する。

ア：正しい。この説明が「疏肝理気を図り、頸肩部の気機を調える。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「温補腎陽のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「疏肝理気を図り、頸肩部の気機を調える。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「清肺潤燥のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「疏肝理気を図り、頸肩部の気機を調える。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「健脾利湿のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「疏肝理気を図り、頸肩部の気機を調える。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：肝鬱気滞では疏肝理気を基本とし、局所の緊張と気滞を調整する。肝鬱気滞では疏肝理気を基本とし、局所の緊張と気滞を調整する。

Q006

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：標準

肩こりの論点「血瘀」について、「血瘀」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．風寒表証では悪寒、無汗、浮緊脈などが中心となる。
- イ．固定性で刺すような痛みと瘀点は血行停滞を示す代表的所見である。
- ウ．肺気虚では息切れ、自汗、易感冒などがみられやすい。
- エ．脾陽虚では冷えを伴う消化機能低下などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．固定性で刺すような痛みと瘀点は血行停滞を示す代表的所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「風寒表証」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「血瘀」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「脾陽虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

総合解説：固定性で刺すような痛みと瘀点は血行停滞を示す代表的所見である。固定性で刺すような痛みと瘀点は血行停滞を示す代表的所見である。

Q007

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：基礎

肩こりの論点「風寒」について、「風寒が経絡を阻滞した病証」が適切とされる根拠はどれか。

ア．肝腎陰虚では慢性的な虚熱や腰膝酸軟などがみられやすい。

イ．胃熱では口渴、口臭、消穀善飢などが中心となる。

ウ．冷えを契機とする急性のこわばり、悪寒、温めて軽減する所見は風寒による経絡阻滞と整合する。

エ．心血虚では動悸、不眠、健忘などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ウ．冷えを契機とする急性のこわばり、悪寒、温めて軽減する所見は風寒による経絡阻滞と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝腎陰虚」を評価するための説明であり、今回の「風寒が経絡を阻滞した病証」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「胃熱」を評価するための説明であり、今回の「風寒が経絡を阻滞した病証」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「風寒が経絡を阻滞した病証」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心血虚」を評価するための説明であり、今回の「風寒が経絡を阻滞した病証」を支持する根拠にはならない。

総合解説：冷えを契機とする急性のこわばり、悪寒、温めて軽減する所見は風寒による経絡阻滞と整合する。冷えを契機とする急性のこわばり、悪寒、温めて軽減する所見は風寒による経絡阻滞と整合する。

Q008

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：基礎

肩こりの論点「局所選穴」について、「局所の反応点と病証に応じた遠隔穴を組み合わせる。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．局所の圧痛・硬結は重要な臨床情報である。

イ．症候と病証に応じて選穴を調整する。

ウ．刺入深度は解剖学的安全性を優先して決定する。

エ．症候に対する鍼灸治療では局所所見と病証の双方を評価し、選穴・刺激量を個別化する。

答え・4肢解説

正答：エ．症候に対する鍼灸治療では局所所見と病証の双方を評価し、選穴・刺激量を個別化する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「局所所見を無視し遠隔穴だけに固定する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の反応点と病証に応じた遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「病証を無視し全例で同一穴だけを用いる。」を評価するための説明であり、今回の「局所の反応点と病証に応じた遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「圧痛の有無に関係なく最深部まで刺入する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の反応点と病証に応じた遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「局所の反応点と病証に応じた遠隔穴を組み合わせる。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：症候に対する鍼灸治療では局所所見と病証の双方を評価し、選穴・刺激量を個別化する。症候に対する鍼灸治療では局所所見と病証の双方を評価し、選穴・刺激量を個別化する。

Q009

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：応用

肩こりの論点「頸椎由来症状」について、「頸髄障害を疑い、医療機関での評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．両上肢症状と巧緻運動障害、歩行障害は頸髄障害を疑う重要所見である。
- イ．進行する神経症状を筋疲労だけで説明しない。
- ウ．東洋医学的弁証のみで器質的神経障害を除外できない。
- エ．強い誘発操作は不要で、安全な医療評価を優先する。

答え・4肢解説

正答：ア．両上肢症状と巧緻運動障害、歩行障害は頸髄障害を疑う重要所見である。

ア：正しい。この説明が「頸髄障害を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「単純な筋疲労として肩周囲だけ施術する。」を評価するための説明であり、今回の「頸髄障害を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「血瘀証のみと判断して経過観察する。」を評価するための説明であり、今回の「頸髄障害を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「強い頸部回旋操作で症状を再現する。」を評価するための説明であり、今回の「頸髄障害を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：両上肢症状と巧緻運動障害、歩行障害は頸髄障害を疑う重要所見である。両上肢症状と巧緻運動障害、歩行障害は頸髄障害を疑う重要所見である。

Q010

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：標準

肩こりの論点「再評価」について、「自覚症状だけでなく、頸部可動域や圧痛、日常生活への影響も再評価する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．眠気だけでは主症状への効果を評価できない。
- イ．治療効果は症状強度、機能、局所所見、生活への影響など複数の指標で評価する。
- ウ．鍼数は効果の代替指標ではない。
- エ．患者報告と客観所見を合わせて評価する。

答え・4肢解説

正答：イ．治療効果は症状強度、機能、局所所見、生活への影響など複数の指標で評価する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「施術直後の眠気だけで効果を判定する。」を評価するための説明であり、今回の「自覚症状だけでなく、頸部可動域や圧痛、日常生活への影響も再評価する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「自覚症状だけでなく、頸部可動域や圧痛、日常生活への影響も再評価する。」を支持する中心的根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「鍼の本数が多いほど有効と判定する。」を評価するための説明であり、今回の「自覚症状だけでなく、頸部可動域や圧痛、日常生活への影響も再評価する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「患者の訴えを聞かず施術者の印象だけで判定する。」を評価するための説明であり、今回の「自覚症状だけでなく、頸部可動域や圧痛、日常生活への影響も再評価する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：治療効果は症状強度、機能、局所所見、生活への影響など複数の指標で評価する。治療効果は症状強度、機能、局所所見、生活への影響など複数の指標で評価する。

Q011

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：基礎

肩こりの論点「姿勢と休息」について、「長時間同一姿勢を避け、定期的に姿勢を変えて軽く身体を動かす。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．「痛みがなくなるまで終日同一姿勢を保つ。」について、同一姿勢の継続は頸肩部への負荷を増やす。

イ．睡眠不足は健康維持に不利である。

ウ．持続姿勢を減らし、休憩や軽い運動を取り入れることは筋緊張の軽減に役立つ。

エ．過度な持続伸展は症状を増悪させる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ．持続姿勢を減らし、休憩や軽い運動を取り入れることは筋緊張の軽減に役立つ。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「痛みがなくなるまで終日同一姿勢を保つ。」を評価するための説明であり、今回の「長時間同一姿勢を避け、定期的に姿勢を変えて軽く身体を動かす。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肩こり予防のため睡眠時間を削る。」を評価するための説明であり、今回の「長時間同一姿勢を避け、定期的に姿勢を変えて軽く身体を動かす。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「長時間同一姿勢を避け、定期的に姿勢を変えて軽く身体を動かす。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「症状の有無にかかわらず頸部を強く反らし続ける。」を評価するための説明であり、今回の「長時間同一姿勢を避け、定期的に姿勢を変えて軽く身体を動かす。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：持続姿勢を減らし、休憩や軽い運動を取り入れることは筋緊張の軽減に役立つ。持続姿勢を減らし、休憩や軽い運動を取り入れることは筋緊張の軽減に役立つ。

Q012

4-1 運動器 > 肩こり | 難易度：応用

肩こりの論点「虚弱者への施術」について、「少ない刺激量から開始し、反応を確認しながら調整する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．過剰刺激は倦怠感や有害反応を招き得る。

イ．刺入深度は体格・部位・解剖に応じて調整する。

ウ．施術後反応の確認は治療計画に重要である。

エ．生体の感受性、体格、体力を考慮して刺激量を個別化することが安全な施術につながる。

答え・4肢解説

正答：エ．生体の感受性、体格、体力を考慮して刺激量を個別化することが安全な施術につながる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「初回から強刺激を長時間行う。」を評価するための説明であり、今回の「少ない刺激量から開始し、反応を確認しながら調整する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「体格に関係なく若年者と同じ深度に固定する。」を評価するための説明であり、今回の「少ない刺激量から開始し、反応を確認しながら調整する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「施術後の反応確認を省略する。」を評価するための説明であり、今回の「少ない刺激量から開始し、反応を確認しながら調整する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「少ない刺激量から開始し、反応を確認しながら調整する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：生体の感受性、体格、体力を考慮して刺激量を個別化することが安全な施術につながる。生体の感受性、体格、体力を考慮して刺激量を個別化することが安全な施術につながる。

Q013

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：応用

腰痛の論点「馬尾症候群」について、「馬尾障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．会陰部感覚障害と膀胱直腸障害は馬尾症候群を疑う重要な警告所見である。
- イ．緊急性の高い神経障害を東洋医学的病証だけで扱わない。
- ウ．施術で反応を見る状況ではない。
- エ．神経機能障害の進行を防ぐため迅速な評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア．会陰部感覚障害と膀胱直腸障害は馬尾症候群を疑う重要な警告所見である。

ア：正しい。この説明が「馬尾障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎虚腰痛として鍼灸のみ継続する。」を評価するための説明であり、今回の「馬尾障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「腰部への強刺激で排尿改善を確認する。」を評価するための説明であり、今回の「馬尾障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「数週間経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「馬尾障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：会陰部感覚障害と膀胱直腸障害は馬尾症候群を疑う重要な警告所見である。会陰部感覚障害と膀胱直腸障害は馬尾症候群を疑う重要な警告所見である。

Q014

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：標準

腰痛の論点「腎虚」について、「腎虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．食滞では腹満、噯気、食欲異常など消化器症状が中心となる。
- イ．腰は腎との関連が深く、慢性腰痛、腰膝酸軟、疲労で増悪する所見は腎虚と整合する。
- ウ．風熱犯肺では咳、咽痛、発熱などが中心となる。
- エ．心火亢盛では心煩、不眠、口舌の症状などがみられやすい。

答え・4肢解説

正答：イ．腰は腎との関連が深く、慢性腰痛、腰膝酸軟、疲労で増悪する所見は腎虚と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「食滞」を評価するための説明であり、今回の「腎虚」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「腎虚」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「風熱犯肺」を評価するための説明であり、今回の「腎虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心火亢盛」を評価するための説明であり、今回の「腎虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：腰は腎との関連が深く、慢性腰痛、腰膝酸軟、疲労で増悪する所見は腎虚と整合する。腰は腎との関連が深く、慢性腰痛、腰膝酸軟、疲労で増悪する所見は腎虚と整合する。

Q015

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：標準

腰痛の論点「寒湿」について、「寒湿による経絡阻滞」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝陽上亢では頭痛、めまい、易怒などが中心となる。
- イ．胃陰虚では口渴や飢不欲食などが中心となる。
- ウ．寒冷・湿気で増悪する重だるい腰痛と温めて軽快する所見は寒湿腰痛に合う。
- エ．心血虚では動悸や不眠などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ウ．寒冷・湿気で増悪する重だるい腰痛と温めて軽快する所見は寒湿腰痛に合う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝陽上亢」を評価するための説明であり、今回の「寒湿による経絡阻滞」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「胃陰虚」を評価するための説明であり、今回の「寒湿による経絡阻滞」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「寒湿による経絡阻滞」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心血虚」を評価するための説明であり、今回の「寒湿による経絡阻滞」を支持する根拠にはならない。

総合解説：寒冷・湿気で増悪する重だるい腰痛と温めて軽快する所見は寒湿腰痛に合う。寒冷・湿気で増悪する重だるい腰痛と温めて軽快する所見は寒湿腰痛に合う。

Q016

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：標準

腰痛の論点「血瘀」について、「血瘀」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．脾気虚は主に消化機能低下や倦怠感を呈する。
- イ．肺気虚は息切れ、自汗などが中心となる。
- ウ．腎陰虚は腰のだるさを伴い得るが、外傷後の固定性刺痛は血瘀がより適合する。
- エ．外傷後の固定性・刺痛と瘀斑は血瘀を示唆する。

答え・4肢解説

正答：エ．外傷後の固定性・刺痛と瘀斑は血瘀を示唆する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陰虚のみ」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「血瘀」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：外傷後の固定性・刺痛と瘀斑は血瘀を示唆する。外傷後の固定性・刺痛と瘀斑は血瘀を示唆する。

Q017

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：基礎

腰痛の論点「四総穴」について、「委中」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．「腰背は委中に求む」とされ、委中は腰背部症候の代表的遠隔穴である。
- イ．列缺は頭項部などとの関連で用いられる四総穴である。
- ウ．合谷は顔面・口部などとの関連で用いられる。
- エ．足三里は腹部症候などに用いられる。

答え・4肢解説

正答：ア．「腰背は委中に求む」とされ、委中は腰背部症候の代表的遠隔穴である。

ア：正しい。この説明が「委中」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「列缺」を評価するための説明であり、今回の「委中」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「合谷」を評価するための説明であり、今回の「委中」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「足三里」を評価するための説明であり、今回の「委中」を支持する根拠にはならない。

総合解説：「腰背は委中に求む」とされ、委中は腰背部症候の代表的遠隔穴である。「腰背は委中に求む」とされ、委中は腰背部症候の代表的遠隔穴である。

Q018

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：標準

腰痛の論点「下肢伸展挙上テスト」について、「下肢伸展挙上テスト」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．アブレーテストは膝半月板などの評価に用いられる。
- イ．下肢伸展挙上テストは坐骨神経・腰仙部神経根の刺激症状評価に用いられる。
- ウ．ファレンテストは手根管症候群の評価に用いられる。
- エ．トーマステストは股関節屈曲拘縮などの評価に用いられる。

答え・4肢解説

正答：イ．下肢伸展挙上テストは坐骨神経・腰仙部神経根の刺激症状評価に用いられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「アブレーテスト」を評価するための説明であり、今回の「下肢伸展挙上テスト」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「下肢伸展挙上テスト」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「ファレンテスト」を評価するための説明であり、今回の「下肢伸展挙上テスト」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「トーマステスト」を評価するための説明であり、今回の「下肢伸展挙上テスト」を支持する根拠にはならない。

総合解説：下肢伸展挙上テストは坐骨神経・腰仙部神経根の刺激症状評価に用いられる。下肢伸展挙上テストは坐骨神経・腰仙部神経根の刺激症状評価に用いられる。

Q019

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：応用

腰痛の論点「全身症状」について、「感染症などを含む重篤病態を考え、医療機関での評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．全身症状を伴う場合は筋疲労だけと判断しない。
- イ．診断を遅らせる可能性がある。
- ウ．安静時痛・発熱・全身症状は感染症などの鑑別が必要で、鍼灸適否を慎重に判断する。
- エ．症状を抑える前に原因病態の評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ．安静時痛・発熱・全身症状は感染症などの鑑別が必要で、鍼灸適否を慎重に判断する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「単純な筋疲労として施術する。」を評価するための説明であり、今回の「感染症などを含む重篤病態を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「温めて数週間様子を見る。」を評価するための説明であり、今回の「感染症などを含む重篤病態を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「感染症などを含む重篤病態を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「強い局所刺激で疼痛を消失させる。」を評価するための説明であり、今回の「感染症などを含む重篤病態を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：安静時痛・発熱・全身症状は感染症などの鑑別が必要で、鍼灸適否を慎重に判断する。安静時痛・発熱・全身症状は感染症などの鑑別が必要で、鍼灸適否を慎重に判断する。

Q020

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：標準

腰痛の論点「腎虚の治法」について、「腎を補い、腰部の機能を支える。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．清熱解毒は熱毒などへの治法である。
- イ．疏風解表は外感表証への治法である。
- ウ．消食導滯は食滞への治法である。
- エ．腎虚性腰痛では補腎を基本とし、局所の気血運行も調える。

答え・4肢解説

正答：エ．腎虚性腰痛では補腎を基本とし、局所の気血運行も調える。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「清熱解毒のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「腎を補い、腰部の機能を支える。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「疏風解表のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「腎を補い、腰部の機能を支える。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「消食導滯のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「腎を補い、腰部の機能を支える。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「腎を補い、腰部の機能を支える。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：腎虚性腰痛では補腎を基本とし、局所の気血運行も調える。腎虚性腰痛では補腎を基本とし、局所の気血運行も調える。

Q021

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：基礎

腰痛の論点「活動維持」について、「症状に応じて無理のない活動を保ち、長期の過度な安静を避ける。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．重篤病態がない場合は過度な長期安静を避け、許容範囲で活動を保つ考え方が基本となる。

イ．長期臥床は身体機能低下につながり得る。

ウ．必要以上の活動制限は回復を妨げることがある。

エ．運動負荷は段階的に調整する必要がある。

答え・4肢解説

正答：ア．重篤病態がない場合は過度な長期安静を避け、許容範囲で活動を保つ考え方が基本となる。

ア：正しい。この説明が「症状に応じて無理のない活動を保ち、長期の過度な安静を避ける。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「痛みが少しでもあれば長期間完全臥床する。」を評価するための説明であり、今回の「症状に応じて無理のない活動を保ち、長期の過度な安静を避ける。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「日常動作をすべて中止する。」を評価するための説明であり、今回の「症状に応じて無理のない活動を保ち、長期の過度な安静を避ける。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「急に高負荷の筋力訓練だけを行う。」を評価するための説明であり、今回の「症状に応じて無理のない活動を保ち、長期の過度な安静を避ける。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：重篤病態がない場合は過度な長期安静を避け、許容範囲で活動を保つ考え方が基本となる。重篤病態がない場合は過度な長期安静を避け、許容範囲で活動を保つ考え方が基本となる。

Q022

4-1 運動器 > 腰痛 | 難易度：応用

腰痛の論点「局所・遠隔選穴」について、「腰部の反応点と、経絡・病証に応じた下肢の遠隔穴を組み合わせ、温める方向を考える。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．腰部でも安全な深度・方向の判断が必要である。

イ．局所所見、経絡、病証を統合し、寒湿には温通を意識した施術計画が適する。

ウ．病証と症候に基づく選穴が必要である。

エ．刺激量は患者反応を確認しながら調整する。

答え・4肢解説

正答：イ．局所所見、経絡、病証を統合し、寒湿には温通を意識した施術計画が適する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腰部の解剖を無視して深刺のみ行う。」を評価するための説明であり、今回の「腰部の反応点と、経絡・病証に応じた下肢の遠隔穴を組み合わせ、温める方向を考える。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「腰部の反応点と、経絡・病証に応じた下肢の遠隔穴を組み合わせ、温める方向を考える。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「病証を無視し頭部の穴だけを選ぶ。」を評価するための説明であり、今回の「腰部の反応点と、経絡・病証に応じた下肢の遠隔穴を組み合わせ、温める方向を考える。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「圧痛部に強刺激を続け、患者反応は確認しない。」を評価するための説明であり、今回の「腰部の反応点と、経絡・病証に応じた下肢の遠隔穴を組み合わせ、温める方向を考える。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：局所所見、経絡、病証を統合し、寒湿には温通を意識した施術計画が適する。局所所見、経絡、病証を統合し、寒湿には温通を意識した施術計画が適する。

Q023

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：基礎

膝痛の論点「変形性膝関節症」について、「変形性膝関節症」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．化膿性関節炎では急性の強い疼痛、発熱、腫脹などが問題となる。
- イ．骨幹部骨折は外傷歴や著しい機能障害を伴う。
- ウ．高齢者の荷重時痛や動作開始時痛は変形性膝関節症でよくみられる。
- エ．急性コンパートメント症候群は下腿などの緊急病態である。

答え・4肢解説

正答：ウ．高齢者の荷重時痛や動作開始時痛は変形性膝関節症でよくみられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「急性化膿性膝関節炎」を評価するための説明であり、今回の「変形性膝関節症」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「大腿骨骨幹部骨折」を評価するための説明であり、今回の「変形性膝関節症」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「変形性膝関節症」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「急性コンパートメント症候群」を評価するための説明であり、今回の「変形性膝関節症」を支持する根拠にはならない。

総合解説：高齢者の荷重時痛や動作開始時痛は変形性膝関節症でよくみられる。高齢者の荷重時痛や動作開始時痛は変形性膝関節症でよくみられる。

Q024

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：標準

膝痛の論点「感染性関節炎」について、「感染性関節炎などを疑い、速やかな医療評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．感染が疑われる局所への施術を優先しない。
- イ．感染疑いの関節周辺で侵襲を加えるべきではない。
- ウ．強い負荷をかける状況ではない。
- エ．急性の発赤・腫脹・熱感・発熱は感染性関節炎などを考える重要所見である。

答え・4肢解説

正答：エ．急性の発赤・腫脹・熱感・発熱は感染性関節炎などを考える重要所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「冷えによる膝痛として灸だけを行う。」を評価するための説明であり、今回の「感染性関節炎などを疑い、速やかな医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「関節内への深刺を行う。」を評価するための説明であり、今回の「感染性関節炎などを疑い、速やかな医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「強く歩かせて可動域を確認する。」を評価するための説明であり、今回の「感染性関節炎などを疑い、速やかな医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「感染性関節炎などを疑い、速やかな医療評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：急性の発赤・腫脹・熱感・発熱は感染性関節炎などを考える重要所見である。急性の発赤・腫脹・熱感・発熱は感染性関節炎などを考える重要所見である。

Q025

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：基礎

膝痛の論点「犢鼻」について、「犢鼻」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．犢鼻は膝前面の局所穴で、膝関節周囲の症候に用いられる。
- イ．列缺は前腕の肺経に属する。
- ウ．太淵は手関節部の肺経原穴である。
- エ．神門は手関節部の心経原穴である。

答え・4肢解説

正答：ア．犢鼻は膝前面の局所穴で、膝関節周囲の症候に用いられる。

ア：正しい。この説明が「犢鼻」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「列缺」を評価するための説明であり、今回の「犢鼻」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「太淵」を評価するための説明であり、今回の「犢鼻」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「神門」を評価するための説明であり、今回の「犢鼻」を支持する根拠にはならない。

総合解説：犢鼻は膝前面の局所穴で、膝関節周囲の症候に用いられる。犢鼻は膝前面の局所穴で、膝関節周囲の症候に用いられる。

Q026

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：標準

膝痛の論点「寒湿痺」について、「寒湿痺」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝火上炎では頭痛、目赤、易怒などが中心となる。
- イ．重だるさ、冷え・湿気で増悪、温熱で軽快する所見は寒湿痺に合う。
- ウ．肺陰虚では乾咳、咽乾などが中心となる。
- エ．心脾両虚では動悸、不眠、食欲不振などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．重だるさ、冷え・湿気で増悪、温熱で軽快する所見は寒湿痺に合う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「寒湿痺」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「寒湿痺」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「寒湿痺」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心脾両虚」を評価するための説明であり、今回の「寒湿痺」を支持する根拠にはならない。

総合解説：重だるさ、冷え・湿気で増悪、温熱で軽快する所見は寒湿痺に合う。重だるさ、冷え・湿気で増悪、温熱で軽快する所見は寒湿痺に合う。

Q027

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：標準

膝痛の論点「血瘀」について、「血瘀」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．風寒表証では悪寒や表証所見が中心となる。
- イ．肺気虚は呼吸器・衛気の虚弱が中心となる。
- ウ．外傷後の固定性刺痛は血瘀を示唆する。
- エ．脾気虚は消化機能低下や倦怠感が中心となる。

答え・4肢解説

正答：ウ．外傷後の固定性刺痛は血瘀を示唆する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「風寒表証」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「血瘀」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

総合解説：外傷後の固定性刺痛は血瘀を示唆する。 外傷後の固定性刺痛は血瘀を示唆する。

Q028

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：基礎

膝痛の論点「大腿四頭筋」について、「大腿四頭筋」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．上腕三頭筋は肘伸展に関与する。
- イ．前鋸筋は肩甲骨運動に関与する。
- ウ．咬筋は咀嚼筋である。
- エ．大腿四頭筋は膝伸展と関節支持に重要で、膝痛の機能評価に関係する。

答え・4肢解説

正答：エ．大腿四頭筋は膝伸展と関節支持に重要で、膝痛の機能評価に関係する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「上腕三頭筋」を評価するための説明であり、今回の「大腿四頭筋」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「前鋸筋」を評価するための説明であり、今回の「大腿四頭筋」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「咬筋」を評価するための説明であり、今回の「大腿四頭筋」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「大腿四頭筋」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：大腿四頭筋は膝伸展と関節支持に重要で、膝痛の機能評価に関係する。 大腿四頭筋は膝伸展と関節支持に重要で、膝痛の機能評価に関係する。

Q029

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：標準

膝痛の論点「運動負荷」について、「症状に応じて大腿部筋力と日常活動を維持し、過負荷を避ける。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．慢性膝痛では過負荷を避けつつ、筋力・活動性を維持することが重要である。
- イ．過度な不動は筋力低下につながる。
- ウ．疼痛増悪まで行う必要はない。
- エ．負荷は段階的に設定する。

答え・4肢解説

正答：ア．慢性膝痛では過負荷を避けつつ、筋力・活動性を維持することが重要である。

ア：正しい。この説明が「症状に応じて大腿部筋力と日常活動を維持し、過負荷を避ける。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「膝を一切動かさない生活を続ける。」を評価するための説明であり、今回の「症状に応じて大腿部筋力と日常活動を維持し、過負荷を避ける。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「疼痛が強くなるまで反復屈伸する。」を評価するための説明であり、今回の「症状に応じて大腿部筋力と日常活動を維持し、過負荷を避ける。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「急に高負荷のジャンプ運動から開始する。」を評価するための説明であり、今回の「症状に応じて大腿部筋力と日常活動を維持し、過負荷を避ける。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：慢性膝痛では過負荷を避けつつ、筋力・活動性を維持することが重要である。慢性膝痛では過負荷を避けつつ、筋力・活動性を維持することが重要である。

Q030

4-1 運動器 > 膝痛 | 難易度：応用

膝痛の論点「選穴と刺激量」について、「局所の膝周囲穴に加え、腎虚・寒証を考慮した選穴と穏やかな温熱刺激を検討する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．東洋医学臨床では局所と全身病証の双方を評価する。
- イ．局所症状と腎虚・寒証の全身所見を統合し、高齢者では刺激量も慎重に設定する。
- ウ．温熱刺激は熱傷を避けて調整する。
- エ．高齢者の感受性や合併症を考慮する。

答え・4肢解説

正答：イ．局所症状と腎虚・寒証の全身所見を統合し、高齢者では刺激量も慎重に設定する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「局所所見だけで病証評価を省略する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の膝周囲穴に加え、腎虚・寒証を考慮した選穴と穏やかな温熱刺激を検討する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「局所の膝周囲穴に加え、腎虚・寒証を考慮した選穴と穏やかな温熱刺激を検討する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「冷えがあるため熱傷するまで施灸する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の膝周囲穴に加え、腎虚・寒証を考慮した選穴と穏やかな温熱刺激を検討する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「年齢や感受性を無視して強刺激に固定する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の膝周囲穴に加え、腎虚・寒証を考慮した選穴と穏やかな温熱刺激を検討する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：局所症状と腎虚・寒証の全身所見を統合し、高齢者では刺激量も慎重に設定する。局所症状と腎虚・寒証の全身所見を統合し、高齢者では刺激量も慎重に設定する。

Q031

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：応用

頭痛の論点「雷鳴頭痛」について、「くも膜下出血などを疑い、緊急の医療評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．一次性頭痛と決めつける前に重篤病態を除外する。
- イ．施術反応で鑑別する状況ではない。
- ウ．雷鳴頭痛は重篤な二次性頭痛を疑う警告所見であり、緊急評価が必要である。
- エ．診断の遅れにつながる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ．雷鳴頭痛は重篤な二次性頭痛を疑う警告所見であり、緊急評価が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「片頭痛と決めて鍼灸施術を開始する。」を評価するための説明であり、今回の「くも膜下出血などを疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「風池への強刺激で反応を見る。」を評価するための説明であり、今回の「くも膜下出血などを疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「くも膜下出血などを疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「翌日まで安静にして経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「くも膜下出血などを疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：雷鳴頭痛は重篤な二次性頭痛を疑う警告所見であり、緊急評価が必要である。雷鳴頭痛は重篤な二次性頭痛を疑う警告所見であり、緊急評価が必要である。

Q032

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：基礎

頭痛の論点「片頭痛」について、「片頭痛」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．緊張型頭痛は一般に圧迫・締め付ける性状で、日常動作で増悪しにくい。
- イ．群発頭痛は一側眼窩部の激痛と自律神経症状を特徴とする。
- ウ．副鼻腔炎では鼻症状や感染所見などが重要になる。
- エ．拍動性、活動で増悪、悪心、光・音過敏は片頭痛の代表的特徴である。

答え・4肢解説

正答：エ．拍動性、活動で増悪、悪心、光・音過敏は片頭痛の代表的特徴である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「緊張型頭痛」を評価するための説明であり、今回の「片頭痛」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「群発頭痛」を評価するための説明であり、今回の「片頭痛」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「副鼻腔炎による頭痛だけ」を評価するための説明であり、今回の「片頭痛」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「片頭痛」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：拍動性、活動で増悪、悪心、光・音過敏は片頭痛の代表的特徴である。拍動性、活動で増悪、悪心、光・音過敏は片頭痛の代表的特徴である。

Q033

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：基礎

頭痛の論点「緊張型頭痛」について、「緊張型頭痛」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．両側性、圧迫・締め付ける性状、活動で増悪しにくいことは緊張型頭痛に合う。
- イ．片頭痛は拍動性や活動による増悪、悪心などを伴いやすい。
- ウ．群発頭痛は一側眼窩部を中心とした極めて強い頭痛である。
- エ．髄膜炎では発熱、項部硬直、意識変容などを伴うことがある。

答え・4肢解説

正答：ア．両側性、圧迫・締め付ける性状、活動で増悪しにくいことは緊張型頭痛に合う。

ア：正しい。この説明が「緊張型頭痛」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「片頭痛」を評価するための説明であり、今回の「緊張型頭痛」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「群発頭痛」を評価するための説明であり、今回の「緊張型頭痛」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「髄膜炎」を評価するための説明であり、今回の「緊張型頭痛」を支持する根拠にはならない。

総合解説：両側性、圧迫・締め付ける性状、活動で増悪しにくいことは緊張型頭痛に合う。両側性、圧迫・締め付ける性状、活動で増悪しにくいことは緊張型頭痛に合う。

Q034

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：標準

頭痛の論点「群発頭痛」について、「群発頭痛」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．緊張型頭痛ではこのような自律神経症状を伴う激烈な一側痛は典型的でない。
- イ．群発頭痛は一側眼窩部の激痛と流涙・鼻汁などの同側自律神経症状を特徴とする。
- ウ．薬物乱用頭痛は過剰な急性期薬使用との関連が重要である。
- エ．肩こりだけでは説明できない特徴的な発作である。

答え・4肢解説

正答：イ．群発頭痛は一側眼窩部の激痛と流涙・鼻汁などの同側自律神経症状を特徴とする。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「緊張型頭痛」を評価するための説明であり、今回の「群発頭痛」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「群発頭痛」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「薬物乱用頭痛だけ」を評価するための説明であり、今回の「群発頭痛」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「単純な肩こり」を評価するための説明であり、今回の「群発頭痛」を支持する根拠にはならない。

総合解説：群発頭痛は一側眼窩部の激痛と流涙・鼻汁などの同側自律神経症状を特徴とする。群発頭痛は一側眼窩部の激痛と流涙・鼻汁などの同側自律神経症状を特徴とする。

Q035

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：基礎

頭痛の論点「肝陽上亢」について、「肝陽上亢」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．脾気虚は食欲不振や倦怠感が中心となる。
- イ．肺気虚は息切れ、自汗などが中心となる。
- ウ．頭部の脹痛、めまい、易怒、顔面紅潮、弦脈は肝陽上亢と整合する。
- エ．腎陽虚は冷え、腰膝酸軟などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ウ．頭部の脹痛、めまい、易怒、顔面紅潮、弦脈は肝陽上亢と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝陽上亢」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝陽上亢」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「肝陽上亢」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「肝陽上亢」を支持する根拠にはならない。

総合解説：頭部の脹痛、めまい、易怒、顔面紅潮、弦脈は肝陽上亢と整合する。頭部の脹痛、めまい、易怒、顔面紅潮、弦脈は肝陽上亢と整合する。

Q036

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：基礎

頭痛の論点「風寒」について、「風寒頭痛」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．風熱では発熱、咽痛、口渇など熱性所見が出やすい。
- イ．痰湿では頭重感、胸脘痞悶、悪心などが目立つ。
- ウ．血虚では慢性的な鈍痛、顔色不良、めまいなどがみられやすい。
- エ．悪寒、無汗、寒冷で発症・増悪する頭痛は風寒頭痛に合う。

答え・4肢解説

正答：エ．悪寒、無汗、寒冷で発症・増悪する頭痛は風寒頭痛に合う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「風熱頭痛」を評価するための説明であり、今回の「風寒頭痛」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「痰湿頭痛」を評価するための説明であり、今回の「風寒頭痛」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「血虚頭痛」を評価するための説明であり、今回の「風寒頭痛」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「風寒頭痛」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：悪寒、無汗、寒冷で発症・増悪する頭痛は風寒頭痛に合う。悪寒、無汗、寒冷で発症・増悪する頭痛は風寒頭痛に合う。

Q037

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：標準

頭痛の論点「風熱」について、「風熱頭痛」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．発熱、咽痛、口渇、浮数脈は風熱の表証を示唆する。
- イ．風寒では悪寒、無汗、浮緊脈などが中心となる。
- ウ．腎陽虚では冷えや腰膝酸軟などが中心となる。
- エ．寒湿腰痛は腰部症候の病証である。

答え・4肢解説

正答：ア．発熱、咽痛、口渇、浮数脈は風熱の表証を示唆する。

ア：正しい。この説明が「風熱頭痛」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒頭痛」を評価するための説明であり、今回の「風熱頭痛」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚頭痛」を評価するための説明であり、今回の「風熱頭痛」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「寒湿腰痛」を評価するための説明であり、今回の「風熱頭痛」を支持する根拠にはならない。

総合解説：発熱、咽痛、口渇、浮数脈は風熱の表証を示唆する。発熱、咽痛、口渇、浮数脈は風熱の表証を示唆する。

Q038

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：標準

頭痛の論点「痰湿」について、「痰湿頭痛」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝火では強い脹痛、易怒、口苦、目赤などがみられやすい。
- イ．頭重、悪心、胸脘痞悶、膩苔は痰湿の上擾を示唆する。
- ウ．血瘀では固定性の刺痛が典型的である。
- エ．風寒では悪寒、無汗などの表証所見が中心である。

答え・4肢解説

正答：イ．頭重、悪心、胸脘痞悶、膩苔は痰湿の上擾を示唆する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「痰湿頭痛」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「痰湿頭痛」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「血瘀頭痛」を評価するための説明であり、今回の「痰湿頭痛」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒表証だけ」を評価するための説明であり、今回の「痰湿頭痛」を支持する根拠にはならない。

総合解説：頭重、悪心、胸脘痞悶、膩苔は痰湿の上擾を示唆する。頭重、悪心、胸脘痞悶、膩苔は痰湿の上擾を示唆する。

Q039

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：標準

頭痛の論点「血瘀」について、「血瘀頭痛」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．気虚では疲労で増悪する鈍痛や倦怠感などが中心となる。
- イ．風熱では発熱・咽痛などの表熱所見がみられやすい。
- ウ．外傷歴、固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示唆する。
- エ．痰湿では頭重感、悪心、膩苔などが特徴的である。

答え・4肢解説

正答：ウ．外傷歴、固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示唆する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「気虚頭痛」を評価するための説明であり、今回の「血瘀頭痛」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「風熱頭痛」を評価するための説明であり、今回の「血瘀頭痛」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「血瘀頭痛」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「痰湿頭痛」を評価するための説明であり、今回の「血瘀頭痛」を支持する根拠にはならない。

総合解説：外傷歴、固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示唆する。外傷歴、固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示唆する。

Q040

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：標準

頭痛の論点「気血不足」について、「気血不足」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝火では実熱所見が中心となる。
- イ．風寒束表では急性の表証が中心となる。
- ウ．食滯では消化器症状が主体となる。
- エ．疲労で増悪し休息で軽減する慢性頭痛、顔色淡白、動悸、めまいは気血不足と整合する。

答え・4肢解説

正答：エ．疲労で増悪し休息で軽減する慢性頭痛、顔色淡白、動悸、めまいは気血不足と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「気血不足」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒束表」を評価するための説明であり、今回の「気血不足」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「食滯」を評価するための説明であり、今回の「気血不足」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「気血不足」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：疲労で増悪し休息で軽減する慢性頭痛、顔色淡白、動悸、めまいは気血不足と整合する。疲労で増悪し休息で軽減する慢性頭痛、顔色淡白、動悸、めまいは気血不足と整合する。

Q041

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：標準

頭痛の論点「風池・太衝」について、「頭頸部の局所穴に加え、肝陽を調整する遠隔穴を組み合わせる。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．症候の局所所見と病証に基づく遠隔選穴を組み合わせるのが合理的である。
- イ．東洋医学的病証は治療方針の重要な情報である。
- ウ．症候と病証に応じて選穴する。
- エ．刺激量は疼痛強度だけで決めず、安全性と感受性を考慮する。

答え・4肢解説

正答：ア．症候の局所所見と病証に基づく遠隔選穴を組み合わせるのが合理的である。

ア：正しい。この説明が「頭頸部の局所穴に加え、肝陽を調整する遠隔穴を組み合わせる。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「頭部の圧痛だけを見て全身病証を無視する。」を評価するための説明であり、今回の「頭頸部の局所穴に加え、肝陽を調整する遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「全例で腹部の穴だけに限定する。」を評価するための説明であり、今回の「頭頸部の局所穴に加え、肝陽を調整する遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「頭痛が強いほど深刺を優先する。」を評価するための説明であり、今回の「頭頸部の局所穴に加え、肝陽を調整する遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：症候の局所所見と病証に基づく遠隔選穴を組み合わせるのが合理的である。 症候の局所所見と病証に基づく遠隔選穴を組み合わせるのが合理的である。

Q042

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：基礎

頭痛の論点「誘因管理」について、「睡眠、食事、ストレス、発作の状況などを記録し、自分の誘因を把握する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．睡眠不足は頭痛の誘因となることがある。
- イ．頭痛日誌などで誘因・頻度・症状を把握することは治療効果や病態変化の評価に役立つ。
- ウ．欠食も誘因となり得るため規則的な生活が望ましい。
- エ．性状変化は二次性頭痛の鑑別にも重要である。

答え・4肢解説

正答：イ．頭痛日誌などで誘因・頻度・症状を把握することは治療効果や病態変化の評価に役立つ。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「発作がない日は睡眠を極端に減らす。」を評価するための説明であり、今回の「睡眠、食事、ストレス、発作の状況などを記録し、自分の誘因を把握する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「睡眠、食事、ストレス、発作の状況などを記録し、自分の誘因を把握する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「誘因の有無にかかわらず食事を抜く。」を評価するための説明であり、今回の「睡眠、食事、ストレス、発作の状況などを記録し、自分の誘因を把握する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「頭痛の性状が変化しても記録しない。」を評価するための説明であり、今回の「睡眠、食事、ストレス、発作の状況などを記録し、自分の誘因を把握する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：頭痛日誌などで誘因・頻度・症状を把握することは治療効果や病態変化の評価に役立つ。 頭痛日誌などで誘因・頻度・症状を把握することは治療効果や病態変化の評価に役立つ。

Q043

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：応用

頭痛の論点「新規神経症状」について、「既往の片頭痛だけで説明せず、脳血管障害などを考えて緊急評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．既往があっても今回の新規神経症状は別病態を疑う。
- イ．東洋医学的病証だけで脳血管障害を除外できない。
- ウ．新規の局所神経症状を伴う頭痛は重篤な二次性頭痛の可能性があり、緊急評価が必要である。
- エ．緊急疾患が疑われる状況で施術反応を確認しない。

答え・4肢解説

正答：ウ．新規の局所神経症状を伴う頭痛は重篤な二次性頭痛の可能性があり、緊急評価が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「いつもの頭痛として施術のみ行う。」を評価するための説明であり、今回の「既往の片頭痛だけで説明せず、脳血管障害などを考えて緊急評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肝陽上亢と判断して翌週まで様子を見る。」を評価するための説明であり、今回の「既往の片頭痛だけで説明せず、脳血管障害などを考えて緊急評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「既往の片頭痛だけで説明せず、脳血管障害などを考えて緊急評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「麻痺側へ強刺激を行って改善を確認する。」を評価するための説明であり、今回の「既往の片頭痛だけで説明せず、脳血管障害などを考えて緊急評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：新規の局所神経症状を伴う頭痛は重篤な二次性頭痛の可能性があり、緊急評価が必要である。新規の局所神経症状を伴う頭痛は重篤な二次性頭痛の可能性があり、緊急評価が必要である。

Q044

4-2 内科系 > 頭痛 | 難易度：標準

頭痛の論点「頭痛日数」について、「頭痛日数、痛みの強さ、日常生活支障度、急性期薬の使用状況」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．施術量だけでは患者アウトカムを評価できない。
- イ．患者の症状・生活機能を評価する必要がある。
- ウ．東洋医学所見だけでなく症状の客観的経過も確認する。
- エ．頭痛の頻度・強度・機能障害・薬使用などを継続的に評価すると治療効果を把握しやすい。

答え・4肢解説

正答：エ．頭痛の頻度・強度・機能障害・薬使用などを継続的に評価すると治療効果を把握しやすい。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「鍼の本数と施術時間だけ」を評価するための説明であり、今回の「頭痛日数、痛みの強さ、日常生活支障度、急性期薬の使用状況」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「施術者の満足度だけ」を評価するための説明であり、今回の「頭痛日数、痛みの強さ、日常生活支障度、急性期薬の使用状況」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「脈診所見だけ」を評価するための説明であり、今回の「頭痛日数、痛みの強さ、日常生活支障度、急性期薬の使用状況」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「頭痛日数、痛みの強さ、日常生活支障度、急性期薬の使用状況」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：頭痛の頻度・強度・機能障害・薬使用などを継続的に評価すると治療効果を把握しやすい。頭痛の頻度・強度・機能障害・薬使用などを継続的に評価すると治療効果を把握しやすい。

Q045

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：基礎

消化器の論点「脾気虚」について、「脾気虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．食欲不振、腹満、軟便、倦怠感、淡舌・弱脈は脾気虚の典型像である。
- イ．肝火上炎では頭痛、目赤、易怒などが中心となる。
- ウ．肺陰虚では乾咳、咽乾などが中心となる。
- エ．血瘀では固定性刺痛などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ア．食欲不振、腹満、軟便、倦怠感、淡舌・弱脈は脾気虚の典型像である。

ア：正しい。この説明が「脾気虚」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「脾気虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「脾気虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「血瘀」を評価するための説明であり、今回の「脾気虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：食欲不振、腹満、軟便、倦怠感、淡舌・弱脈は脾気虚の典型像である。食欲不振、腹満、軟便、倦怠感、淡舌・弱脈は脾気虚の典型像である。

Q046

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：標準

消化器の論点「肝気犯胃」について、「肝気犯胃」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．脾腎陽虚では冷えや慢性下痢などが中心となる。
- イ．情志変動に伴う胃症状、げっぷ、胸脇部の張りは肝気が胃の和降を妨げた病態と合う。
- ウ．肺気虚では息切れや自汗が中心となる。
- エ．心血虚では動悸、不眠などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．情志変動に伴う胃症状、げっぷ、胸脇部の張りは肝気が胃の和降を妨げた病態と合う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「脾腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気犯胃」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「肝気犯胃」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気犯胃」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心血虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気犯胃」を支持する根拠にはならない。

総合解説：情志変動に伴う胃症状、げっぷ、胸脇部の張りは肝気が胃の和降を妨げた病態と合う。情志変動に伴う胃症状、げっぷ、胸脇部の張りは肝気が胃の和降を妨げた病態と合う。

Q047

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：標準

消化器の論点「食積」について、「食滯」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．腎陰虚では腰膝酸軟、虚熱などが中心となる。
- イ．風寒束表では悪寒、無汗などが中心となる。
- ウ．過食を契機とする腹満、腐酸臭のげっぷ、悪心は食滯と整合する。
- エ．肺熱では咳、黄色痰などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ウ．過食を契機とする腹満、腐酸臭のげっぷ、悪心は食滯と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎陰虚」を評価するための説明であり、今回の「食滯」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒束表」を評価するための説明であり、今回の「食滯」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「食滯」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「肺熱」を評価するための説明であり、今回の「食滯」を支持する根拠にはならない。

総合解説：過食を契機とする腹満、腐酸臭のげっぷ、悪心は食滯と整合する。過食を契機とする腹満、腐酸臭のげっぷ、悪心は食滯と整合する。

Q048

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：標準

消化器の論点「腸燥・津液不足」について、「腸燥を伴う津液不足」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．寒湿困脾では重だるさ、食欲不振、軟便などが出やすい。
- イ．風寒犯肺は呼吸器の表寒症状が中心となる。
- ウ．心陽虚では動悸、冷えなどが中心となる。
- エ．乾燥した硬便と口渇・乾燥所見は津液不足による腸燥と整合する。

答え・4肢解説

正答：エ．乾燥した硬便と口渇・乾燥所見は津液不足による腸燥と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「寒湿困脾」を評価するための説明であり、今回の「腸燥を伴う津液不足」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒犯肺」を評価するための説明であり、今回の「腸燥を伴う津液不足」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「心陽虚」を評価するための説明であり、今回の「腸燥を伴う津液不足」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「腸燥を伴う津液不足」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：乾燥した硬便と口渇・乾燥所見は津液不足による腸燥と整合する。乾燥した硬便と口渇・乾燥所見は津液不足による腸燥と整合する。

Q049

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：標準

消化器の論点「脾陽虚」について、「脾陽虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．慢性下痢、冷え、温めて軽快、食欲不振は脾陽虚の特徴に合う。
- イ．胃火では口渇、口臭、便秘など熱性所見が出やすい。
- ウ．肝陽上亢では頭痛、めまいなどが中心となる。
- エ．肺陰虚では乾咳などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ア．慢性下痢、冷え、温めて軽快、食欲不振は脾陽虚の特徴に合う。

ア：正しい。この説明が「脾陽虚」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「胃火亢盛」を評価するための説明であり、今回の「脾陽虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肝陽上亢」を評価するための説明であり、今回の「脾陽虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「脾陽虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：慢性下痢、冷え、温めて軽快、食欲不振は脾陽虚の特徴に合う。慢性下痢、冷え、温めて軽快、食欲不振は脾陽虚の特徴に合う。

Q050

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：応用

消化器の論点「消化管出血」について、「消化管出血を疑い、医療機関での評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．重篤な器質的病態を先に除外する。
- イ．黒色便と循環不全を示唆する症状は消化管出血の可能性がある、医療評価が必要である。
- ウ．出血が疑われる状況で施術を優先しない。
- エ．現代医学的鑑別と適否判断が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ．黒色便と循環不全を示唆する症状は消化管出血の可能性がある、医療評価が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚として施術のみ行う。」を評価するための説明であり、今回の「消化管出血を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「消化管出血を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「腹部へ強い灸を行う。」を評価するための説明であり、今回の「消化管出血を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「便の色は東洋医学的所見だけで判断する。」を評価するための説明であり、今回の「消化管出血を疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：黒色便と循環不全を示唆する症状は消化管出血の可能性がある、医療評価が必要である。黒色便と循環不全を示唆する症状は消化管出血の可能性がある、医療評価が必要である。

Q051

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：基礎

消化器の論点「中脘・足三里」について、「中脘と足三里」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．百会・睛明は主に頭顔面部などの症候に用いられる。
- イ．肩井・環跳は主に運動器症候などで用いられる。
- ウ．中脘は胃の募穴、足三里は胃経の合穴で、消化器症候に広く用いられる。
- エ．承山・崑崙は下肢・腰背部症候などで用いられる。

答え・4肢解説

正答：ウ．中脘は胃の募穴、足三里は胃経の合穴で、消化器症候に広く用いられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「百会と睛明」を評価するための説明であり、今回の「中脘と足三里」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肩井と環跳」を評価するための説明であり、今回の「中脘と足三里」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「中脘と足三里」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「承山と崑崙だけ」を評価するための説明であり、今回の「中脘と足三里」を支持する根拠にはならない。

総合解説：中脘は胃の募穴、足三里は胃経の合穴で、消化器症候に広く用いられる。中脘は胃の募穴、足三里は胃経の合穴で、消化器症候に広く用いられる。

Q052

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：基礎

消化器の論点「内関」について、「内関」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肩髃は肩関節部の症候に用いられる。
- イ．秩辺は腰殿部などの症候に用いられる。
- ウ．陽陵泉は筋会で運動器症候などにも用いられるが、悪心の代表穴として内関が適する。
- エ．内関は心包経の絡穴・八脈交会穴で、悪心などに用いられる代表穴である。

答え・4肢解説

正答：エ．内関は心包経の絡穴・八脈交会穴で、悪心などに用いられる代表穴である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肩髃」を評価するための説明であり、今回の「内関」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「秩辺」を評価するための説明であり、今回の「内関」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「陽陵泉だけ」を評価するための説明であり、今回の「内関」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「内関」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：内関は心包経の絡穴・八脈交会穴で、悪心などに用いられる代表穴である。内関は心包経の絡穴・八脈交会穴で、悪心などに用いられる代表穴である。

Q053

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：標準

消化器の論点「排便記録」について、「排便回数、便性状、排便困難感、腹部症状を継続して記録する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．便通異常は頻度・性状・困難感・随伴症状を追跡することで変化を評価しやすい。
- イ．鍼数は便秘改善のアウトカムではない。
- ウ．患者の症状経過を確認する必要がある。
- エ．東洋医学所見と実際の排便状況の双方を評価する。

答え・4肢解説

正答：ア．便通異常は頻度・性状・困難感・随伴症状を追跡することで変化を評価しやすい。

ア：正しい。この説明が「排便回数、便性状、排便困難感、腹部症状を継続して記録する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「鍼の本数だけを記録する。」を評価するための説明であり、今回の「排便回数、便性状、排便困難感、腹部症状を継続して記録する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「施術者の印象だけで改善と判断する。」を評価するための説明であり、今回の「排便回数、便性状、排便困難感、腹部症状を継続して記録する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「便通を尋ねず脈だけで判定する。」を評価するための説明であり、今回の「排便回数、便性状、排便困難感、腹部症状を継続して記録する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：便通異常は頻度・性状・困難感・随伴症状を追跡することで変化を評価しやすい。便通異常は頻度・性状・困難感・随伴症状を追跡することで変化を評価しやすい。

Q054

4-2 内科系 > 消化器 | 難易度：応用

消化器の論点「急性腹症」について、「急性腹症を疑い、鍼灸施術より医療機関での評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．食滞と決めつける前に重篤病態を除外する。
- イ．持続する激痛、筋性防御を疑う硬さ、嘔吐・発熱は急性腹症の可能性があり、迅速な医療評価が必要である。
- ウ．急性腹症が疑われる場合に侵襲的刺激を優先しない。
- エ．診断の遅れにつながる。

答え・4肢解説

正答：イ．持続する激痛、筋性防御を疑う硬さ、嘔吐・発熱は急性腹症の可能性があり、迅速な医療評価が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「食滞として強い腹部刺激を行う。」を評価するための説明であり、今回の「急性腹症を疑い、鍼灸施術より医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「急性腹症を疑い、鍼灸施術より医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「痛みが強いほど深刺を行う。」を評価するための説明であり、今回の「急性腹症を疑い、鍼灸施術より医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「翌日まで絶食だけで様子を見る。」を評価するための説明であり、今回の「急性腹症を疑い、鍼灸施術より医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：持続する激痛、筋性防御を疑う硬さ、嘔吐・発熱は急性腹症の可能性があり、迅速な医療評価が必要である。持続する激痛、筋性防御を疑う硬さ、嘔吐・発熱は急性腹症の可能性があり、迅速な医療評価が必要である。

Q055

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：基礎

呼吸器の論点「風寒犯肺」について、「風寒犯肺」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．風熱では発熱、咽痛、黄色痰などがみられやすい。
- イ．肺陰虚では乾咳、咽乾、盗汗などが中心となる。
- ウ．悪寒、無汗、白く薄い痰は風寒犯肺の特徴に合う。
- エ．痰熱では黄色く粘稠な痰や熱症状がみられやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ．悪寒、無汗、白く薄い痰は風寒犯肺の特徴に合う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「風熱犯肺」を評価するための説明であり、今回の「風寒犯肺」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「風寒犯肺」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「風寒犯肺」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「痰熱壅肺」を評価するための説明であり、今回の「風寒犯肺」を支持する根拠にはならない。

総合解説：悪寒、無汗、白く薄い痰は風寒犯肺の特徴に合う。悪寒、無汗、白く薄い痰は風寒犯肺の特徴に合う。

Q056

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：標準

呼吸器の論点「風熱犯肺」について、「風熱犯肺」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．風寒では悪寒が強く、白く薄い痰などがみられやすい。
- イ．肺気虚では慢性の弱い咳、息切れ、自汗などが中心となる。
- ウ．腎陽虚では腰膝の冷えや全身の陽虚症状が中心となる。
- エ．咽痛、発熱、口渇、黄色痰は風熱が肺を犯した病証と整合する。

答え・4肢解説

正答：エ．咽痛、発熱、口渇、黄色痰は風熱が肺を犯した病証と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「風寒犯肺」を評価するための説明であり、今回の「風熱犯肺」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「風熱犯肺」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「風熱犯肺」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「風熱犯肺」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：咽痛、発熱、口渇、黄色痰は風熱が肺を犯した病証と整合する。咽痛、発熱、口渇、黄色痰は風熱が肺を犯した病証と整合する。

Q057

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：標準

呼吸器の論点「痰湿」について、「痰湿阻肺」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．多量の痰、胸部重苦感、脾胃症状、膩苔は痰湿阻肺と整合する。
- イ．肝陽上亢では頭痛・めまいなどが中心となる。
- ウ．血虚では顔色不良、めまいなどが中心となる。
- エ．風燥では乾いた咳や咽頭乾燥が中心となる。

答え・4肢解説

正答：ア．多量の痰、胸部重苦感、脾胃症状、膩苔は痰湿阻肺と整合する。

ア：正しい。この説明が「痰湿阻肺」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肝陽上亢」を評価するための説明であり、今回の「痰湿阻肺」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「血虚」を評価するための説明であり、今回の「痰湿阻肺」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「風燥犯肺」を評価するための説明であり、今回の「痰湿阻肺」を支持する根拠にはならない。

総合解説：多量の痰、胸部重苦感、脾胃症状、膩苔は痰湿阻肺と整合する。多量の痰、胸部重苦感、脾胃症状、膩苔は痰湿阻肺と整合する。

Q058

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：基礎

呼吸器の論点「肺気虚」について、「肺気虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．胃熱では口渇、口臭、便秘などが中心となる。
- イ．息切れ、声が弱い、自汗、易感冒は肺気虚の代表的所見である。
- ウ．肝火上炎では頭痛、目赤、易怒などが中心となる。
- エ．血瘀では固定性刺痛などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．息切れ、声が弱い、自汗、易感冒は肺気虚の代表的所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「胃熱」を評価するための説明であり、今回の「肺気虚」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「肺気虚」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「肺気虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「血瘀」を評価するための説明であり、今回の「肺気虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：息切れ、声が弱い、自汗、易感冒は肺気虚の代表的所見である。息切れ、声が弱い、自汗、易感冒は肺気虚の代表的所見である。

Q059

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：応用

呼吸器の論点「急性呼吸困難」について、「緊急性の高い呼吸障害として救急対応を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．東洋医学的病証より先に生命危機を評価する。

イ．施術を優先する状況ではない。

ウ．会話困難やチアノーゼを伴う急性呼吸困難は緊急病態であり、救急対応が必要である。

エ．対応の遅れは危険である。

答え・4肢解説

正答：ウ．会話困難やチアノーゼを伴う急性呼吸困難は緊急病態であり、救急対応が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚として鍼灸のみ行う。」を評価するための説明であり、今回の「緊急性の高い呼吸障害として救急対応を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「呼吸が整うまで伏臥位で深刺する。」を評価するための説明であり、今回の「緊急性の高い呼吸障害として救急対応を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「緊急性の高い呼吸障害として救急対応を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「翌日まで様子を見る。」を評価するための説明であり、今回の「緊急性の高い呼吸障害として救急対応を優先する。」を支持する根拠にはならない。

。総合解説：会話困難やチアノーゼを伴う急性呼吸困難は緊急病態であり、救急対応が必要である。会話困難やチアノーゼを伴う急性呼吸困難は緊急病態であり、救急対応が必要である。

Q060

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：基礎

呼吸器の論点「列缺・肺俞」について、「列缺と肺俞」が適切とされる根拠はどれか。

ア．陽陵泉・環跳は主に下肢や運動器症候で用いられる。

イ．犢鼻・梁丘は膝周囲症候などで用いられる。

ウ．肩髃・曲池は上肢症候などで用いられる。

エ．列缺は肺経の絡穴、肺俞は肺の背部俞穴で、呼吸器症候に用いられる代表穴である。

答え・4肢解説

正答：エ．列缺は肺経の絡穴、肺俞は肺の背部俞穴で、呼吸器症候に用いられる代表穴である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「陽陵泉と環跳」を評価するための説明であり、今回の「列缺と肺俞」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「犢鼻と梁丘」を評価するための説明であり、今回の「列缺と肺俞」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肩髃と曲池だけ」を評価するための説明であり、今回の「列缺と肺俞」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「列缺と肺俞」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：列缺は肺経の絡穴、肺俞は肺の背部俞穴で、呼吸器症候に用いられる代表穴である。列缺は肺経の絡穴、肺俞は肺の背部俞穴で、呼吸器症候に用いられる代表穴である。

Q061

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：標準

呼吸器の論点「症状記録」について、「咳の頻度・強さ、痰、睡眠への影響、息切れなどを継続評価する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．症状頻度、随伴症状、生活への影響を継続して評価することで治療効果を判断しやすい。

イ．器具規格は患者アウトカムではない。

ウ．一時的な無症状だけで長期経過は判断できない。

エ．東洋医学所見と実際の呼吸器症状の双方を評価する。

答え・4肢解説

正答：ア．症状頻度、随伴症状、生活への影響を継続して評価することで治療効果を判断しやすい。

ア：正しい。この説明が「咳の頻度・強さ、痰、睡眠への影響、息切れなどを継続評価する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「鍼の太さだけで効果を判定する。」を評価するための説明であり、今回の「咳の頻度・強さ、痰、睡眠への影響、息切れなどを継続評価する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「治療室で咳をしなければ完治とする。」を評価するための説明であり、今回の「咳の頻度・強さ、痰、睡眠への影響、息切れなどを継続評価する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「呼吸器症状を聞かず舌だけで判断する。」を評価するための説明であり、今回の「咳の頻度・強さ、痰、睡眠への影響、息切れなどを継続評価する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：症状頻度、随伴症状、生活への影響を継続して評価することで治療効果を判断しやすい。症状頻度、随伴症状、生活への影響を継続して評価することで治療効果を判断しやすい。

Q062

4-2 内科系 > 呼吸器 | 難易度：標準

呼吸器の論点「血痰・喀血」について、「呼吸器疾患の精査が必要と考え、医療機関受診を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．症候だけで肺気虚と決めつけない。

イ．血痰と体重減少は重篤な呼吸器疾患を含む鑑別が必要で、医療評価を優先する。

ウ．診断の遅れにつながる可能性がある。

エ．原因不明の出血に鍼灸で止血を試みる状況ではない。

答え・4肢解説

正答：イ．血痰と体重減少は重篤な呼吸器疾患を含む鑑別が必要で、医療評価を優先する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚として施術だけ継続する。」を評価するための説明であり、今回の「呼吸器疾患の精査が必要と考え、医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「呼吸器疾患の精査が必要と考え、医療機関受診を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「血痰が増えるまで経過観察する。」を評価するための説明であり、今回の「呼吸器疾患の精査が必要と考え、医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「胸部への強刺激で止血を試みる。」を評価するための説明であり、今回の「呼吸器疾患の精査が必要と考え、医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：血痰と体重減少は重篤な呼吸器疾患を含む鑑別が必要で、医療評価を優先する。血痰と体重減少は重篤な呼吸器疾患を含む鑑別が必要で、医療評価を優先する。

Q063

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：基礎

月経の論点「問診」について、「周期、持続日数、出血量、疼痛、妊娠可能性など」が適切とされる根拠はどれか。

ア．肩関節可動域は月経異常の主要評価項目ではない。

イ．視力だけでは婦人科症候を評価できない。

ウ．月経異常では周期・持続・量・随伴症状と妊娠の可能性などを系統的に確認する。

エ．足関節捻挫歴だけでは月経異常を評価できない。

答え・4肢解説

正答：ウ．月経異常では周期・持続・量・随伴症状と妊娠の可能性などを系統的に確認する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肩関節可動域だけ」を評価するための説明であり、今回の「周期、持続日数、出血量、疼痛、妊娠可能性など」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「視力だけ」を評価するための説明であり、今回の「周期、持続日数、出血量、疼痛、妊娠可能性など」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「周期、持続日数、出血量、疼痛、妊娠可能性など」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「足関節の捻挫歴だけ」を評価するための説明であり、今回の「周期、持続日数、出血量、疼痛、妊娠可能性など」を支持する根拠にはならない。

総合解説：月経異常では周期・持続・量・随伴症状と妊娠の可能性などを系統的に確認する。月経異常では周期・持続・量・随伴症状と妊娠の可能性などを系統的に確認する。

Q064

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：応用

月経の論点「続発性月経困難症」について、「続発性月経困難症の原因疾患を考え、婦人科での評価を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．経過変化は続発性の原因を考える重要所見である。

イ．東洋医学的病証と器質的疾患の評価は両立させる。

ウ．原因評価をせず刺激量を増やすべきではない。

エ．新規・増悪する月経痛や月経時以外の骨盤痛は子宮内膜症など器質的原因の鑑別が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ．新規・増悪する月経痛や月経時以外の骨盤痛は子宮内膜症など器質的原因の鑑別が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「原発性月経痛と決めて施術のみ行う。」を評価するための説明であり、今回の「続発性月経困難症の原因疾患を考え、婦人科での評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「血瘀証だけと判断し受診は不要とする。」を評価するための説明であり、今回の「続発性月経困難症の原因疾患を考え、婦人科での評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「痛みが強いほど腹部へ強刺激を行う。」を評価するための説明であり、今回の「続発性月経困難症の原因疾患を考え、婦人科での評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「続発性月経困難症の原因疾患を考え、婦人科での評価を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：新規・増悪する月経痛や月経時以外の骨盤痛は子宮内膜症など器質的原因の鑑別が必要である。新規・増悪する月経痛や月経時以外の骨盤痛は子宮内膜症など器質的原因の鑑別が必要である。

Q065

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：標準

月経の論点「気滞血瘀」について、「気滞血瘀」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．月経前の脹痛、血塊、固定痛、情志による増悪は気滞血瘀と整合する。
- イ．脾気虚では倦怠感、食欲不振、出血傾向などが中心となる。
- ウ．肺陰虚では乾咳、咽乾などが中心となる。
- エ．腎陽虚では冷えを伴う虚証所見が中心となる。

答え・4肢解説

正答：ア．月経前の脹痛、血塊、固定痛、情志による増悪は気滞血瘀と整合する。

ア：正しい。この説明が「気滞血瘀」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「気滞血瘀」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「気滞血瘀」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚のみ」を評価するための説明であり、今回の「気滞血瘀」を支持する根拠にはならない。

総合解説：月経前の脹痛、血塊、固定痛、情志による増悪は気滞血瘀と整合する。月経前の脹痛、血塊、固定痛、情志による増悪は気滞血瘀と整合する。

Q066

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：標準

月経の論点「寒凝」について、「寒凝血瘀」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．血熱では鮮紅色の出血や熱性所見がみられやすい。
- イ．冷えて増悪、温めて軽減する月経痛と暗色血塊は寒凝血瘀に合う。
- ウ．肝陽上亢は頭痛・めまいなどが中心となる。
- エ．肺気虚は呼吸器・衛気の虚弱が中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．冷えて増悪、温めて軽減する月経痛と暗色血塊は寒凝血瘀に合う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「血熱」を評価するための説明であり、今回の「寒凝血瘀」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「寒凝血瘀」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肝陽上亢」を評価するための説明であり、今回の「寒凝血瘀」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「寒凝血瘀」を支持する根拠にはならない。

総合解説：冷えて増悪、温めて軽減する月経痛と暗色血塊は寒凝血瘀に合う。冷えて増悪、温めて軽減する月経痛と暗色血塊は寒凝血瘀に合う。

Q067

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：標準

月経の論点「気血虚」について、「気血虚弱」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．湿熱下注では黄臭帯下や排尿痛など湿熱所見がみられやすい。
- イ．肝火上炎では頭痛、易怒、目赤などが中心となる。
- ウ．月経後半の鈍痛、喜按、経量減少、疲労・めまいは気血不足の虚証像である。
- エ．風寒犯肺は呼吸器の表寒証である。

答え・4肢解説

正答：ウ．月経後半の鈍痛、喜按、経量減少、疲労・めまいは気血不足の虚証像である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「湿熱下注」を評価するための説明であり、今回の「気血虚弱」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「気血虚弱」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「気血虚弱」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒犯肺」を評価するための説明であり、今回の「気血虚弱」を支持する根拠にはならない。

総合解説：月経後半の鈍痛、喜按、経量減少、疲労・めまいは気血不足の虚証像である。月経後半の鈍痛、喜按、経量減少、疲労・めまいは気血不足の虚証像である。

Q068

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：基礎

月経の論点「三陰交」について、「三陰交」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．合谷は手陽明大腸経の原穴である。
- イ．外関は手少陽三焦経の絡穴である。
- ウ．肩井は足少陽胆経の肩部の経穴である。
- エ．三陰交は足の三陰経の交会穴で、婦人科症候に代表的に用いられる。

答え・4肢解説

正答：エ．三陰交は足の三陰経の交会穴で、婦人科症候に代表的に用いられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「合谷」を評価するための説明であり、今回の「三陰交」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「外関」を評価するための説明であり、今回の「三陰交」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肩井」を評価するための説明であり、今回の「三陰交」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「三陰交」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：三陰交は足の三陰経の交会穴で、婦人科症候に代表的に用いられる。三陰交は足の三陰経の交会穴で、婦人科症候に代表的に用いられる。

Q069

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：標準

月経の論点「大量出血」について、「貧血や大量出血を考え、速やかな医療評価を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．大量出血と循環・貧血症状がある場合は原因評価と全身状態の確認が必要である。
- イ．東洋医学的病証だけで出血量や貧血の危険性を評価できない。
- ウ．原因不明の大量出血に施術を優先しない。
- エ．貧血を含む医学的評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア．大量出血と循環・貧血症状がある場合は原因評価と全身状態の確認が必要である。

ア：正しい。この説明が「貧血や大量出血を考え、速やかな医療評価を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「脾不統血として施術のみ行う。」を評価するための説明であり、今回の「貧血や大量出血を考え、速やかな医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「出血が止まるまで強い灸を行う。」を評価するための説明であり、今回の「貧血や大量出血を考え、速やかな医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「鉄欠乏の評価をせず経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「貧血や大量出血を考え、速やかな医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：大量出血と循環・貧血症状がある場合は原因評価と全身状態の確認が必要である。大量出血と循環・貧血症状がある場合は原因評価と全身状態の確認が必要である。

Q070

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：標準

月経の論点「無月経」について、「妊娠の可能性」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．利き手は無月経の主要評価項目ではない。
- イ．月経遅延・無月経では妊娠の可能性を確認し、施術計画や医療評価に反映する。
- ウ．靴のサイズは月経遅延の主要評価項目ではない。
- エ．肩こり歴だけでは原因評価にならない。

答え・4肢解説

正答：イ．月経遅延・無月経では妊娠の可能性を確認し、施術計画や医療評価に反映する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「利き手」を評価するための説明であり、今回の「妊娠の可能性」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「妊娠の可能性」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「靴のサイズ」を評価するための説明であり、今回の「妊娠の可能性」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「過去の肩こりだけ」を評価するための説明であり、今回の「妊娠の可能性」を支持する根拠にはならない。

総合解説：月経遅延・無月経では妊娠の可能性を確認し、施術計画や医療評価に反映する。月経遅延・無月経では妊娠の可能性を確認し、施術計画や医療評価に反映する。

Q071

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：基礎

月経の論点「症状日誌」について、「周期、症状の時期・強さ、鎮痛薬使用、生活支障を記録する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．周期情報は月経関連症状の評価に重要である。

イ．患者自身の症状報告が必要である。

ウ．月経周期と症状の時間的関係を記録すると、治療効果や病態変化を把握しやすい。

エ．「毎回異なる評価尺度を無作為に用いる。」について、同じ指標を継続すると変化を比較しやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ．月経周期と症状の時間的関係を記録すると、治療効果や病態変化を把握しやすい。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「月経日を記録しない。」を評価するための説明であり、今回の「周期、症状の時期・強さ、鎮痛薬使用、生活支障を記録する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「痛みの有無を施術者だけで推測する。」を評価するための説明であり、今回の「周期、症状の時期・強さ、鎮痛薬使用、生活支障を記録する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「周期、症状の時期・強さ、鎮痛薬使用、生活支障を記録する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「毎回異なる評価尺度を無作為に用いる。」を評価するための説明であり、今回の「周期、症状の時期・強さ、鎮痛薬使用、生活支障を記録する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：月経周期と症状の時間的関係を記録すると、治療効果や病態変化を把握しやすい。月経周期と症状の時間的関係を記録すると、治療効果や病態変化を把握しやすい。

Q072

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：標準

月経の論点「気滞血瘀の治法」について、「理気活血し、瘀滞を改善する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．肺気虚に対する治法である。

イ．心火亢盛に対する治法である。

ウ．脾陽虚に対する治法であり主病機と合わない。

エ．気滞血瘀では気の流れを整え、血行を促す治法が基本となる。

答え・4肢解説

正答：エ．気滞血瘀では気の流れを整え、血行を促す治法が基本となる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「補肺益気のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「理気活血し、瘀滞を改善する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「清心瀉火のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「理気活血し、瘀滞を改善する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「温補脾陽のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「理気活血し、瘀滞を改善する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「理気活血し、瘀滞を改善する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：気滞血瘀では気の流れを整え、血行を促す治法が基本となる。気滞血瘀では気の流れを整え、血行を促す治法が基本となる。

Q073

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：標準

月経の論点「温経散寒」について、「温経散寒し、血行を促す。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．寒凝による月経痛では温経散寒と活血を意識する。
- イ．熱証に対する治法であり寒証と逆である。
- ウ．風熱表証への治法である。
- エ．肺陰虚への治法である。

答え・4肢解説

正答：ア．寒凝による月経痛では温経散寒と活血を意識する。

ア：正しい。この説明が「温経散寒し、血行を促す。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「清熱瀉火を主とする。」を評価するための説明であり、今回の「温経散寒し、血行を促す。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「疏風清熱だけを行う。」を評価するための説明であり、今回の「温経散寒し、血行を促す。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「滋陰潤肺だけを行う。」を評価するための説明であり、今回の「温経散寒し、血行を促す。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：寒凝による月経痛では温経散寒と活血を意識する。寒凝による月経痛では温経散寒と活血を意識する。

Q074

4-3 婦人科等 > 月経 | 難易度：応用

月経の論点「病証と適否」について、「血瘀への施術計画を考えつつ、器質的疾患の評価を優先して婦人科受診を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．病証と現代医学的鑑別は別の評価軸である。
- イ．東洋医学的病証が成立しても、新規の不正出血や症状増悪は器質的疾患の鑑別を要する。
- ウ．施術反応は疾患除外の手段ではない。
- エ．原因評価を遅らせる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ．東洋医学的病証が成立しても、新規の不正出血や症状増悪は器質的疾患の鑑別を要する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「血瘀証なら不正出血は評価不要とする。」を評価するための説明であり、今回の「血瘀への施術計画を考えつつ、器質的疾患の評価を優先して婦人科受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「血瘀への施術計画を考えつつ、器質的疾患の評価を優先して婦人科受診を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「鍼灸で症状が変わるかだけ確認する。」を評価するための説明であり、今回の「血瘀への施術計画を考えつつ、器質的疾患の評価を優先して婦人科受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「不正出血が続いても施術だけ継続する。」を評価するための説明であり、今回の「血瘀への施術計画を考えつつ、器質的疾患の評価を優先して婦人科受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：東洋医学的病証が成立しても、新規の不正出血や症状増悪は器質的疾患の鑑別を要する。東洋医学的病証が成立しても、新規の不正出血や症状増悪は器質的疾患の鑑別を要する。

Q075

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：基礎

更年期の論点「血管運動症状」について、「ほてり・発汗」が適切とされる根拠はどれか。

ア．膝蓋腱反射消失は更年期の代表症状ではない。

イ．黄疸は肝胆道疾患などの評価が必要である。

ウ．ほてり、発汗、のぼせなどは更年期にみられる代表的な血管運動症状である。

エ．血痰は呼吸器疾患などの評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ．ほてり、発汗、のぼせなどは更年期にみられる代表的な血管運動症状である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「膝蓋腱反射消失だけ」を評価するための説明であり、今回の「ほてり・発汗」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「黄疸だけ」を評価するための説明であり、今回の「ほてり・発汗」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「ほてり・発汗」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「血痰だけ」を評価するための説明であり、今回の「ほてり・発汗」を支持する根拠にはならない。

総合解説：ほてり、発汗、のぼせなどは更年期にみられる代表的な血管運動症状である。ほてり、発汗、のぼせなどは更年期にみられる代表的な血管運動症状である。

Q076

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：標準

更年期の論点「腎陰虚」について、「腎陰虚」が適切とされる根拠はどれか。

ア．腎陽虚では畏寒、四肢冷感、浮腫など寒証が中心となる。

イ．脾気虚では食欲不振、倦怠感、軟便などが中心となる。

ウ．風寒束表は急性の表寒証である。

エ．虚熱、盗汗、口乾、腰膝酸軟、紅舌少苔は腎陰虚の代表的所見である。

答え・4肢解説

正答：エ．虚熱、盗汗、口乾、腰膝酸軟、紅舌少苔は腎陰虚の代表的所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「腎陰虚」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「腎陰虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒束表」を評価するための説明であり、今回の「腎陰虚」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「腎陰虚」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：虚熱、盗汗、口乾、腰膝酸軟、紅舌少苔は腎陰虚の代表的所見である。虚熱、盗汗、口乾、腰膝酸軟、紅舌少苔は腎陰虚の代表的所見である。

Q077

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：標準

更年期の論点「腎陽虚」について、「腎陽虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．冷え、腰膝酸軟、夜間頻尿、浮腫傾向は腎陽虚の特徴に合う。
- イ．腎陰虚ではほてり、盗汗、口乾など虚熱所見が中心となる。
- ウ．肝火では頭痛、目赤、易怒など実熱所見が中心となる。
- エ．胃熱では口渴、口臭などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ア．冷え、腰膝酸軟、夜間頻尿、浮腫傾向は腎陽虚の特徴に合う。

ア：正しい。この説明が「腎陽虚」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陰虚」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「胃熱」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：冷え、腰膝酸軟、夜間頻尿、浮腫傾向は腎陽虚の特徴に合う。 冷え、腰膝酸軟、夜間頻尿、浮腫傾向は腎陽虚の特徴に合う。

Q078

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：標準

更年期の論点「肝鬱気滞」について、「肝鬱気滞」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肺気虚では息切れ、自汗などが中心となる。
- イ．情志との関連、胸脇部の張り、ため息、易怒は肝鬱気滞と整合する。
- ウ．脾陽虚では冷えと消化機能低下が中心となる。
- エ．寒湿痺は運動器の痛み・重だるさなどが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．情志との関連、胸脇部の張り、ため息、易怒は肝鬱気滞と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝鬱気滞」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「肝鬱気滞」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「脾陽虚」を評価するための説明であり、今回の「肝鬱気滞」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「寒湿痺」を評価するための説明であり、今回の「肝鬱気滞」を支持する根拠にはならない。

総合解説：情志との関連、胸脇部の張り、ため息、易怒は肝鬱気滞と整合する。 情志との関連、胸脇部の張り、ため息、易怒は肝鬱気滞と整合する。

Q079

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：標準

更年期の論点「心腎不交」について、「心腎不交」が適切とされる根拠はどれか。

ア．肺脾気虚では息切れ、食欲不振、倦怠感などが中心となる。

イ．風寒犯肺では悪寒、咳、白痰などが中心となる。

ウ．腎陰不足を背景に心火が相対的に亢進し、不眠・動悸・焦燥と虚熱がみられる病証である。

エ．食滯では腹満、げっぷ、悪心などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ウ．腎陰不足を背景に心火が相対的に亢進し、不眠・動悸・焦燥と虚熱がみられる病証である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肺脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「心腎不交」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒犯肺」を評価するための説明であり、今回の「心腎不交」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「心腎不交」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「食滯」を評価するための説明であり、今回の「心腎不交」を支持する根拠にはならない。

総合解説：腎陰不足を背景に心火が相対的に亢進し、不眠・動悸・焦燥と虚熱がみられる病証である。腎陰不足を背景に心火が相対的に亢進し、不眠・動悸・焦燥と虚熱がみられる病証である。

Q080

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：応用

更年期の論点「閉経後出血」について、「原因精査のため婦人科受診を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．閉経後の新規出血を一般的な更年期症状として扱わない。

イ．東洋医学的病証で器質的疾患は除外できない。

ウ．少量でも原因評価が必要な場合がある。

エ．閉経後出血は子宮内膜病変などの鑑別が必要であり、医療機関での評価を優先する。

答え・4肢解説

正答：エ．閉経後出血は子宮内膜病変などの鑑別が必要であり、医療機関での評価を優先する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「更年期症状の一つとして施術だけで経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「原因精査のため婦人科受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎虚証なら出血評価は不要とする。」を評価するための説明であり、今回の「原因精査のため婦人科受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「出血量が少なければ必ず問題ないと説明する。」を評価するための説明であり、今回の「原因精査のため婦人科受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「原因精査のため婦人科受診を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：閉経後出血は子宮内膜病変などの鑑別が必要であり、医療機関での評価を優先する。閉経後出血は子宮内膜病変などの鑑別が必要であり、医療機関での評価を優先する。

Q081

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：基礎

更年期の論点「症状とQOL」について、「ほてり、睡眠、気分、日常生活支障度などを継続して評価する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．更年期症状は多面的であり、症状頻度・強度とQOLへの影響を継続評価する。
- イ．東洋医学的所見だけでは患者アウトカムを十分に評価できない。
- ウ．施術回数は治療効果そのものではない。
- エ．生活への影響は重要な評価項目である。

答え・4肢解説

正答：ア．更年期症状は多面的であり、症状頻度・強度とQOLへの影響を継続評価する。

ア：正しい。この説明が「ほてり、睡眠、気分、日常生活支障度などを継続して評価する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「脈だけで全て判定する。」を評価するための説明であり、今回の「ほてり、睡眠、気分、日常生活支障度などを継続して評価する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「施術回数が多いほど改善とする。」を評価するための説明であり、今回の「ほてり、睡眠、気分、日常生活支障度などを継続して評価する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「患者の生活への影響を確認しない。」を評価するための説明であり、今回の「ほてり、睡眠、気分、日常生活支障度などを継続して評価する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：更年期症状は多面的であり、症状頻度・強度とQOLへの影響を継続評価する。更年期症状は多面的であり、症状頻度・強度とQOLへの影響を継続評価する。

Q082

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：標準

更年期の論点「滋陰補腎」について、「滋陰補腎し、虚熱を調整する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．温補腎陽は腎陽虚への治法であり、虚熱を悪化させる可能性がある。
- イ．腎陰虚では陰液を補い、相対的な虚熱を調整するのが基本となる。
- ウ．発汗を強く促す治法は陰液を損なう可能性がある。
- エ．食滯に対する治法であり主病機と合わない。

答え・4肢解説

正答：イ．腎陰虚では陰液を補い、相対的な虚熱を調整するのが基本となる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「温補腎陽のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「滋陰補腎し、虚熱を調整する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「滋陰補腎し、虚熱を調整する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「発汗を強く促す。」を評価するための説明であり、今回の「滋陰補腎し、虚熱を調整する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「消食導滯のみを行う。」を評価するための説明であり、今回の「滋陰補腎し、虚熱を調整する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：腎陰虚では陰液を補い、相対的な虚熱を調整するのが基本となる。腎陰虚では陰液を補い、相対的な虚熱を調整するのが基本となる。

Q083

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：標準

更年期の論点「健康維持」について、「睡眠、運動、食事、飲酒・喫煙などの生活習慣を症状と併せて見直す。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．適度な運動は健康維持に重要で、個別に負荷を調整する。

イ．睡眠の確保は症状管理に重要である。

ウ．更年期は生活習慣や心理社会的要因も含めて多面的に支援することが重要である。

エ．食事や飲酒などは健康状態に影響するため確認する。

答え・4肢解説

正答：ウ．更年期は生活習慣や心理社会的要因も含めて多面的に支援することが重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「症状があるため運動を全面的に禁止する。」を評価するための説明であり、今回の「睡眠、運動、食事、飲酒・喫煙などの生活習慣を症状と併せて見直す。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「睡眠不足を気合で補う。」を評価するための説明であり、今回の「睡眠、運動、食事、飲酒・喫煙などの生活習慣を症状と併せて見直す。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「睡眠、運動、食事、飲酒・喫煙などの生活習慣を症状と併せて見直す。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「食事や飲酒は症状と無関係として確認しない。」を評価するための説明であり、今回の「睡眠、運動、食事、飲酒・喫煙などの生活習慣を症状と併せて見直す。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：更年期は生活習慣や心理社会的要因も含めて多面的に支援することが重要である。更年期は生活習慣や心理社会的要因も含めて多面的に支援することが重要である。

Q084

4-3 婦人科等 > 更年期 | 難易度：応用

更年期の論点「併用と連携」について、「鍼灸での症状支援を検討しつつ、必要に応じ婦人科での評価・治療選択肢も案内する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．効果を保証する断定は適切でない。

イ．既存治療の中止を独断で勧めない。

ウ．更年期症状は心理社会的要因やQOLへの影響も評価する。

エ．鍼灸の役割と限界を踏まえ、症状の重さに応じて医療連携を行うことが適切である。

答え・4肢解説

正答：エ．鍼灸の役割と限界を踏まえ、症状の重さに応じて医療連携を行うことが適切である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「鍼灸だけで必ず治ると説明する。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸での症状支援を検討しつつ、必要に応じ婦人科での評価・治療選択肢も案内する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「医療機関の治療はすべて中止するよう勧める。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸での症状支援を検討しつつ、必要に応じ婦人科での評価・治療選択肢も案内する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「症状が強くても心理社会的影響は評価しない。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸での症状支援を検討しつつ、必要に応じ婦人科での評価・治療選択肢も案内する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「鍼灸での症状支援を検討しつつ、必要に応じ婦人科での評価・治療選択肢も案内する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：鍼灸の役割と限界を踏まえ、症状の重さに応じて医療連携を行うことが適切である。鍼灸の役割と限界を踏まえ、症状の重さに応じて医療連携を行うことが適切である。

Q085

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：標準

泌尿生殖の論点「膀胱湿熱」について、「膀胱湿熱」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．排尿痛、頻尿、尿混濁、熱感は膀胱湿熱の特徴に合う。
- イ．腎陽虚では冷え、夜間頻尿、腰膝酸軟などが中心となる。
- ウ．肺気虚では息切れ、自汗などが中心となる。
- エ．心血虚では動悸、不眠などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：ア．排尿痛、頻尿、尿混濁、熱感は膀胱湿熱の特徴に合う。

ア：正しい。この説明が「膀胱湿熱」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「膀胱湿熱」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「膀胱湿熱」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心血虚」を評価するための説明であり、今回の「膀胱湿熱」を支持する根拠にはならない。

総合解説：排尿痛、頻尿、尿混濁、熱感は膀胱湿熱の特徴に合う。 排尿痛、頻尿、尿混濁、熱感は膀胱湿熱の特徴に合う。

Q086

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：標準

泌尿生殖の論点「腎気不固」について、「腎気不固」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝火上炎は頭痛、易怒などが中心となる。
- イ．頻尿・尿失禁と腰膝酸軟は腎気の固摂機能低下を示唆する。
- ウ．胃熱は口渇・口臭などが中心となる。
- エ．風熱犯肺は咳、咽痛などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．頻尿・尿失禁と腰膝酸軟は腎気の固摂機能低下を示唆する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「腎気不固」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「腎気不固」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「胃熱」を評価するための説明であり、今回の「腎気不固」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「風熱犯肺」を評価するための説明であり、今回の「腎気不固」を支持する根拠にはならない。

総合解説：頻尿・尿失禁と腰膝酸軟は腎気の固摂機能低下を示唆する。 頻尿・尿失禁と腰膝酸軟は腎気の固摂機能低下を示唆する。

Q087

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：応用

泌尿生殖の論点「発熱性尿路感染」について、「上部尿路感染症などを疑い、医療機関での評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．東洋医学的病証だけで感染の重症度を判断しない。

イ．感染症の評価・治療を遅らせる可能性がある。

ウ．発熱と側腹部痛を伴う尿路症状は腎盂腎炎などの可能性があり、医療評価が必要である。

エ．高熱を伴う場合は受診を優先する。

答え・4肢解説

正答：ウ．発熱と側腹部痛を伴う尿路症状は腎盂腎炎などの可能性があり、医療評価が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「膀胱湿熱として鍼灸のみ行う。」を評価するための説明であり、今回の「上部尿路感染症などを疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「発熱が下がるまで局所灸を繰り返す。」を評価するための説明であり、今回の「上部尿路感染症などを疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「上部尿路感染症などを疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「水分だけ勤めて数日経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「上部尿路感染症などを疑い、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：発熱と側腹部痛を伴う尿路症状は腎盂腎炎などの可能性があり、医療評価が必要である。発熱と側腹部痛を伴う尿路症状は腎盂腎炎などの可能性があり、医療評価が必要である。

Q088

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：応用

泌尿生殖の論点「肉眼的血尿」について、「泌尿器疾患の精査のため医療機関受診を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．腎虚の病証があっても血尿の器質的原因を除外できない。

イ．一過性でも原因によっては評価が必要である。

ウ．原因不明の血尿で侵襲的施術を優先しない。

エ．肉眼的血尿は腫瘍・結石・感染など多様な原因があり、原因精査が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ．肉眼的血尿は腫瘍・結石・感染など多様な原因があり、原因精査が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎虚として施術だけを続ける。」を評価するための説明であり、今回の「泌尿器疾患の精査のため医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「血尿が止まれば原因評価は不要とする。」を評価するための説明であり、今回の「泌尿器疾患の精査のため医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「膀胱部へ深刺して反応を見る。」を評価するための説明であり、今回の「泌尿器疾患の精査のため医療機関受診を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「泌尿器疾患の精査のため医療機関受診を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：肉眼的血尿は腫瘍・結石・感染など多様な原因があり、原因精査が必要である。肉眼的血尿は腫瘍・結石・感染など多様な原因があり、原因精査が必要である。

Q089

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：基礎

泌尿生殖の論点「中極」について、「中極」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．中極は膀胱の募穴で、排尿障害など泌尿器症候に用いられる。
- イ．百会は頭頂部の督脈穴である。
- ウ．大椎は頸背部の督脈穴である。
- エ．膻中は胸部の任脈穴である。

答え・4肢解説

正答：ア．中極は膀胱の募穴で、排尿障害など泌尿器症候に用いられる。

ア：正しい。この説明が「中極」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「百会」を評価するための説明であり、今回の「中極」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「大椎」を評価するための説明であり、今回の「中極」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「膻中」を評価するための説明であり、今回の「中極」を支持する根拠にはならない。

総合解説：中極は膀胱の募穴で、排尿障害など泌尿器症候に用いられる。中極は膀胱の募穴で、排尿障害など泌尿器症候に用いられる。

Q090

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：標準

泌尿生殖の論点「腎陽虚」について、「腎陽虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝火上炎は頭痛・目赤・易怒などが中心となる。
- イ．性機能低下、腰膝酸軟、冷え、夜間頻尿は腎陽虚と整合する。
- ウ．肺陰虚は乾咳・咽乾などが中心となる。
- エ．胃熱は口渇・口臭などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．性機能低下、腰膝酸軟、冷え、夜間頻尿は腎陽虚と整合する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「腎陽虚」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「胃熱」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：性機能低下、腰膝酸軟、冷え、夜間頻尿は腎陽虚と整合する。性機能低下、腰膝酸軟、冷え、夜間頻尿は腎陽虚と整合する。

Q091

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：標準

泌尿生殖の論点「原因評価」について、「鍼灸による体調支援を行う場合も、男女双方の医学的原因評価の重要性を説明する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．不妊の原因は女性側だけとは限らない。

イ．妊娠成立を保証することはできない。

ウ．不妊には男女双方の多様な要因があり、適切な医学的評価と必要に応じた鍼灸支援を両立する。

エ．原因評価は治療方針を考えるうえで重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ．不妊には男女双方の多様な要因があり、適切な医学的評価と必要に応じた鍼灸支援を両立する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「女性だけに原因があると決めつける。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸による体調支援を行う場合も、男女双方の医学的原因評価の重要性を説明する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「鍼灸だけで妊娠を保証できると説明する。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸による体調支援を行う場合も、男女双方の医学的原因評価の重要性を説明する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「鍼灸による体調支援を行う場合も、男女双方の医学的原因評価の重要性を説明する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「医療機関での検査は不要と説明する。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸による体調支援を行う場合も、男女双方の医学的原因評価の重要性を説明する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：不妊には男女双方の多様な要因があり、適切な医学的評価と必要に応じた鍼灸支援を両立する。不妊には男女双方の多様な要因があり、適切な医学的評価と必要に応じた鍼灸支援を両立する。

Q092

4-3 婦人科等 > 泌尿生殖 | 難易度：応用

泌尿生殖の論点「病証と現代医学的鑑別」について、「腎気不固への弁証は参考にしつつ、血尿と体重減少の原因精査を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．病証と重篤疾患の除外は別々に評価する必要がある。

イ．症状改善は血尿の原因除外を意味しない。

ウ．原因不明の体重減少は評価が必要である。

エ．東洋医学的病証が成立しても、肉眼的血尿や体重減少は器質的疾患の鑑別を優先すべき所見である。

答え・4肢解説

正答：エ．東洋医学的病証が成立しても、肉眼的血尿や体重減少は器質的疾患の鑑別を優先すべき所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎気不固だけで全症状を説明する。」を評価するための説明であり、今回の「腎気不固への弁証は参考にしつつ、血尿と体重減少の原因精査を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「鍼灸で頻尿が軽くなれば血尿は評価しない。」を評価するための説明であり、今回の「腎気不固への弁証は参考にしつつ、血尿と体重減少の原因精査を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「体重減少は年齢のせいとして経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「腎気不固への弁証は参考にしつつ、血尿と体重減少の原因精査を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「腎気不固への弁証は参考にしつつ、血尿と体重減少の原因精査を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：東洋医学的病証が成立しても、肉眼的血尿や体重減少は器質的疾患の鑑別を優先すべき所見である。東洋医学的病証が成立しても、肉眼的血尿や体重減少は器質的疾患の鑑別を優先すべき所見である。

Q093

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：基礎

神経痛の論点「三叉神経痛の特徴」について、「三叉神経痛」が適切とされる根拠はどれか。

ア．三叉神経痛では三叉神経支配領域に短時間の電撃様疼痛が反復し、軽い刺激で誘発されることがある。

イ．緊張型頭痛は通常、頭部の圧迫感・締め付け感を主体とする。

ウ．末梢性顔面神経麻痺は顔面筋の運動麻痺が中心である。

エ．顎関節脱臼では開口状態で閉口困難などが問題となる。

答え・4肢解説

正答：ア．三叉神経痛では三叉神経支配領域に短時間の電撃様疼痛が反復し、軽い刺激で誘発されることがある。

ア：正しい。この説明が「三叉神経痛」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「緊張型頭痛」を評価するための説明であり、今回の「三叉神経痛」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「末梢性顔面神経麻痺」を評価するための説明であり、今回の「三叉神経痛」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「顎関節脱臼」を評価するための説明であり、今回の「三叉神経痛」を支持する根拠にはならない。

総合解説：三叉神経痛では三叉神経支配領域に短時間の電撃様疼痛が反復し、軽い刺激で誘発されることがある。三叉神経痛では三叉神経支配領域に短時間の電撃様疼痛が反復し、軽い刺激で誘発されることがある。

Q094

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：標準

神経痛の論点「非典型所見」について、「持続する顔面感覚低下と進行性の神経症状」が適切とされる根拠はどれか。

ア．軽い刺激による誘発は三叉神経痛で見られることがある。

イ．持続性の感覚障害や進行性神経症状は典型的な特発性三叉神経痛だけでは説明できず、器質的疾患の鑑別が必要である。

ウ．発作間欠期に無症状となることは典型像と矛盾しない。

エ．片側性の短時間反復痛は典型的特徴の一つである。

答え・4肢解説

正答：イ．持続性の感覚障害や進行性神経症状は典型的な特発性三叉神経痛だけでは説明できず、器質的疾患の鑑別が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「軽い接触で一過性に疼痛が誘発される。」を評価するための説明であり、今回の「持続する顔面感覚低下と進行性の神経症状」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「持続する顔面感覚低下と進行性の神経症状」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「発作間欠期には疼痛が消失する。」を評価するための説明であり、今回の「持続する顔面感覚低下と進行性の神経症状」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「片側の三叉神経領域に短時間痛が反復する。」を評価するための説明であり、今回の「持続する顔面感覚低下と進行性の神経症状」を支持する根拠にはならない。

総合解説：持続性の感覚障害や進行性神経症状は典型的な特発性三叉神経痛だけでは説明できず、器質的疾患の鑑別が必要である。持続性の感覚障害や進行性神経症状は典型的な特発性三叉神経痛だけでは説明できず、器質的疾患の鑑別が必要である。

Q095

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：基礎

神経痛の論点「下肢放散痛」について、「下肢伸展挙上で同様の放散痛が誘発される。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肩外転は頸部神経根症の評価と関連することがある。
- イ．開口時耳前部痛は顎関節障害などで問題となる。
- ウ．下肢伸展挙上テストで坐骨神経領域への放散痛が再現されることは腰仙部神経根刺激を示唆する。
- エ．複視は眼球運動系の神経障害を考える所見である。

答え・4肢解説

正答：ウ．下肢伸展挙上テストで坐骨神経領域への放散痛が再現されることは腰仙部神経根刺激を示唆する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肩外転で疼痛が軽減する。」を評価するための説明であり、今回の「下肢伸展挙上で同様の放散痛が誘発される。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「開口で耳前部痛が増悪する。」を評価するための説明であり、今回の「下肢伸展挙上で同様の放散痛が誘発される。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「下肢伸展挙上で同様の放散痛が誘発される。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「眼球運動で複視が生じる。」を評価するための説明であり、今回の「下肢伸展挙上で同様の放散痛が誘発される。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：下肢伸展挙上テストで坐骨神経領域への放散痛が再現されることは腰仙部神経根刺激を示唆する。下肢伸展挙上テストで坐骨神経領域への放散痛が再現されることは腰仙部神経根刺激を示唆する。

Q096

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：標準

神経痛の論点「馬尾症候群レッドフラッグ」について、「鍼灸施術を優先せず、緊急の医療評価を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．東洋医学的病証より緊急性のある神経圧迫の除外を優先する。
- イ．強刺激で経過を見る状況ではない。
- ウ．神経機能障害の進行を防ぐため迅速な医療評価が必要である。
- エ．尿閉、サドル領域感覚障害、両下肢の進行性神経障害は馬尾症候群などを疑う重要なレッドフラッグである。

答え・4肢解説

正答：エ．尿閉、サドル領域感覚障害、両下肢の進行性神経障害は馬尾症候群などを疑う重要なレッドフラッグである。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎虚として腎俞へ施灸し経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸施術を優先せず、緊急の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「坐骨神経痛として強い雀啄を継続する。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸施術を優先せず、緊急の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「翌週まで自宅安静のみで様子を見る。」を評価するための説明であり、今回の「鍼灸施術を優先せず、緊急の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「鍼灸施術を優先せず、緊急の医療評価を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：尿閉、サドル領域感覚障害、両下肢の進行性神経障害は馬尾症候群などを疑う重要なレッドフラッグである。尿閉、サドル領域感覚障害、両下肢の進行性神経障害は馬尾症候群などを疑う重要なレッドフラッグである。

Q097

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：基礎

神経痛の論点「帯状痛」について、「肋間に沿う帯状痛でも、心肺疾患や带状疱疹などの原因を鑑別する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．胸郭部の痛みは肋間神経由来だけでなく心肺疾患、带状疱疹、胸壁疾患など多様な原因を考える必要がある。

イ．痛みの分布だけで原因を確定できない。

ウ．胸痛では循環器・呼吸器系の緊急疾患を除外する必要がある。

エ．带状疱疹では神経痛に続いて皮疹が出現することがある。

答え・4肢解説

正答：ア．胸郭部の痛みは肋間神経由来だけでなく心肺疾患、带状疱疹、胸壁疾患など多様な原因を考える必要がある。

ア：正しい。この説明が「肋間に沿う帯状痛でも、心肺疾患や带状疱疹などの原因を鑑別する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肋間に沿えば必ず原発性神経痛と判断する。」を評価するための説明であり、今回の「肋間に沿う帯状痛でも、心肺疾患や带状疱疹などの原因を鑑別する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「胸痛があっても循環器症状の確認は不要である。」を評価するための説明であり、今回の「肋間に沿う帯状痛でも、心肺疾患や带状疱疹などの原因を鑑別する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「皮疹の有無は鑑別に関係しない。」を評価するための説明であり、今回の「肋間に沿う帯状痛でも、心肺疾患や带状疱疹などの原因を鑑別する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：胸郭部の痛みは肋間神経由来だけでなく心肺疾患、带状疱疹、胸壁疾患など多様な原因を考える必要がある。胸郭部の痛みは肋間神経由来だけでなく心肺疾患、带状疱疹、胸壁疾患など多様な原因を考える必要がある。

Q098

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：標準

神経痛の論点「神経痛と皮疹」について、「带状疱疹を疑い、早期の医療評価を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．活動性皮疹への不適切な刺激は避ける。

イ．片側の皮節に一致した疼痛と小水疱は带状疱疹を疑う所見で、抗ウイルス治療の適応を含め早期医療評価が重要である。

ウ．感染性疾患の可能性を東洋医学的病証だけで置き換えない。

エ．带状疱疹は通常、片側性の皮節分布を示す。

答え・4肢解説

正答：イ．片側の皮節に一致した疼痛と小水疱は带状疱疹を疑う所見で、抗ウイルス治療の適応を含め早期医療評価が重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肋間神経痛として皮疹部へ直接強刺激を行う。」を評価するための説明であり、今回の「带状疱疹を疑い、早期の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「带状疱疹を疑い、早期の医療評価を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「単なる血瘀として医療評価は不要とする。」を評価するための説明であり、今回の「带状疱疹を疑い、早期の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「左右対称の皮膚病変が必発と説明する。」を評価するための説明であり、今回の「带状疱疹を疑い、早期の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：片側の皮節に一致した疼痛と小水疱は带状疱疹を疑う所見で、抗ウイルス治療の適応を含め早期医療評価が重要である。片側の皮節に一致した疼痛と小水疱は带状疱疹を疑う所見で、抗ウイルス治療の適応を含め早期医療評価が重要である。

Q099

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：基礎

神経痛の論点「後頭部発作痛」について、「後頭部から頭頂方向へ走る発作性の鋭い痛みを呈することがある。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．顔面筋麻痺は顔面神経障害の問題である。

イ．両側拍動性に限定されない。

ウ．大後頭神経などの分布に沿う鋭い発作痛や圧痛がみられることがある。

エ．後頭神経は後頭部の感覚に関与する。

答え・4肢解説

正答：ウ．大後頭神経などの分布に沿う鋭い発作痛や圧痛がみられることがある。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「顔面下半分だけの弛緩性麻痺を主徴とする。」を評価するための説明であり、今回の「後頭部から頭頂方向へ走る発作性の鋭い痛みを呈することがある。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「必ず両側の拍動性頭痛となる。」を評価するための説明であり、今回の「後頭部から頭頂方向へ走る発作性の鋭い痛みを呈することがある。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「後頭部から頭頂方向へ走る発作性の鋭い痛みを呈することがある。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「下肢の知覚障害だけを呈する。」を評価するための説明であり、今回の「後頭部から頭頂方向へ走る発作性の鋭い痛みを呈することがある。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：大後頭神経などの分布に沿う鋭い発作痛や圧痛がみられることがある。大後頭神経などの分布に沿う鋭い発作痛や圧痛がみられることがある。

Q100

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：標準

神経痛の論点「血瘀型疼痛」について、「血瘀」が適切とされる根拠はどれか。

ア．気虚では疲労、息切れ、自汗など不足の所見が中心となる。

イ．肺陰虚では乾咳、咽乾、盗汗などがみられやすい。

ウ．脾陽虚では冷え、軟便、腹部の冷痛などが中心となる。

エ．固定性・刺痛・夜間増悪・暗紫舌は血行停滞を示す血瘀の代表的所見である。

答え・4肢解説

正答：エ．固定性・刺痛・夜間増悪・暗紫舌は血行停滞を示す血瘀の代表的所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「気虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肺陰虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「脾陽虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「血瘀」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：固定性・刺痛・夜間増悪・暗紫舌は血行停滞を示す血瘀の代表的所見である。固定性・刺痛・夜間増悪・暗紫舌は血行停滞を示す血瘀の代表的所見である。

Q101

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：標準

神経痛の論点「寒凝型疼痛」について、「寒を散じ、経脈を温めて通じさせる。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．寒邪による凝滞では温めると軽減しやすく、散寒・温経通絡が治療の基本となる。
- イ．明らかな熱証の治法であり、この症例の寒冷増悪とは合わない。
- ウ．陰虚火旺を示す所見が中心ではない。
- エ．湿の所見だけで説明できない。

答え・4肢解説

正答：ア．寒邪による凝滞では温めると軽減しやすく、散寒・温経通絡が治療の基本となる。

ア：正しい。この説明が「寒を散じ、経脈を温めて通じさせる。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「清熱瀉火を第一とする。」を評価するための説明であり、今回の「寒を散じ、経脈を温めて通じさせる。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「滋陰降火だけを行う。」を評価するための説明であり、今回の「寒を散じ、経脈を温めて通じさせる。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「健脾利湿だけに限定する。」を評価するための説明であり、今回の「寒を散じ、経脈を温めて通じさせる。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：寒邪による凝滞では温めると軽減しやすく、散寒・温経通絡が治療の基本となる。寒邪による凝滞では温めると軽減しやすく、散寒・温経通絡が治療の基本となる。

Q102

4-4 神経 > 神経痛 | 難易度：標準

神経痛の論点「局所遠隔配穴」について、「疼痛部位の経脈・局所所見と病証を踏まえ、局所穴と遠隔穴を組み合わせる。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．「疾患名だけで全患者に同一穴を固定する。」について、同じ神経痛でも原因や病証は異なる。
- イ．局所病態・経脈・全身病証を統合し、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが基本となる。
- ウ．配穴理論より解剖学的安全性を優先する。
- エ．重篤疾患の鑑別と適否判断は常に必要である。

答え・4肢解説

正答：イ．局所病態・経脈・全身病証を統合し、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが基本となる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「疾患名だけで全患者に同一穴を固定する。」を評価するための説明であり、今回の「疼痛部位の経脈・局所所見と病証を踏まえ、局所穴と遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「疼痛部位の経脈・局所所見と病証を踏まえ、局所穴と遠隔穴を組み合わせる。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「局所の解剖学的危険性を無視して最深部まで刺す。」を評価するための説明であり、今回の「疼痛部位の経脈・局所所見と病証を踏まえ、局所穴と遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「東洋医学的病証が決まれば現代医学的鑑別は不要である。」を評価するための説明であり、今回の「疼痛部位の経脈・局所所見と病証を踏まえ、局所穴と遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：局所病態・経脈・全身病証を統合し、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが基本となる。局所病態・経脈・全身病証を統合し、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが基本となる。

Q103

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：基礎

顔面神経の論点「中枢性との鑑別」について、「患側の額のしわ寄せと閉眼の両方が困難になる。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．額が比較的保たれる下顔面優位麻痺は中枢性病変を疑う所見である。

イ．顔面の一般体性感覚は主に三叉神経が担う。

ウ．末梢性顔面神経麻痺では同側の上顔面・下顔面の表情筋がともに障害される。

エ．舌運動は主に舌下神経が担う。

答え・4肢解説

正答：ウ．末梢性顔面神経麻痺では同側の上顔面・下顔面の表情筋がともに障害される。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「患側下顔面だけが麻痺し額の運動は完全に保たれる。」を評価するための説明であり、今回の「患側の額のしわ寄せと閉眼の両方が困難になる。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「顔面の痛覚だけが消失し表情筋は正常である。」を評価するための説明であり、今回の「患側の額のしわ寄せと閉眼の両方が困難になる。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「患側の額のしわ寄せと閉眼の両方が困難になる。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「舌の運動麻痺だけが出現する。」を評価するための説明であり、今回の「患側の額のしわ寄せと閉眼の両方が困難になる。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：末梢性顔面神経麻痺では同側の上顔面・下顔面の表情筋がともに障害される。末梢性顔面神経麻痺では同側の上顔面・下顔面の表情筋がともに障害される。

Q104

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：標準

顔面神経の論点「脳卒中レッドフラッグ」について、「脳血管障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．ベル麻痺だけでは上肢麻痺や中枢性徴候を説明できない。

イ．急性脳血管障害では時間依存性治療があるため遅延させない。

ウ．弁証より緊急疾患の除外が優先される。

エ．下顔面優位の麻痺に片麻痺・構音障害を伴う場合は中枢性病変を強く疑い、緊急対応が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ．下顔面優位の麻痺に片麻痺・構音障害を伴う場合は中枢性病変を強く疑い、緊急対応が必要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「ベル麻痺として顔面部の鍼治療のみを開始する。」を評価するための説明であり、今回の「脳血管障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「経過観察のみとし翌月再評価する。」を評価するための説明であり、今回の「脳血管障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「気血不足として補法だけを行う。」を評価するための説明であり、今回の「脳血管障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「脳血管障害を疑い、緊急の医療評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：下顔面優位の麻痺に片麻痺・構音障害を伴う場合は中枢性病変を強く疑い、緊急対応が必要である。下顔面優位の麻痺に片麻痺・構音障害を伴う場合は中枢性病変を強く疑い、緊急対応が必要である。

Q105

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：標準

顔面神経の論点「耳痛と疱疹」について、「ラムゼイ・ハント症候群」が適切とされる根拠はどれか。

ア．顔面神経麻痺に耳痛と耳介・外耳道周囲の疱疹を伴う場合、帯状疱疹ウイルスによるラムゼイ・ハント症候群を考える。

イ．ベル麻痺では典型的に耳介周囲の疱疹を伴わない。

ウ．三叉神経痛は電撃様顔面痛が主体で顔面筋麻痺は基本ではない。

エ．緊張型頭痛は顔面神経麻痺を呈さない。

答え・4肢解説

正答：ア．顔面神経麻痺に耳痛と耳介・外耳道周囲の疱疹を伴う場合、帯状疱疹ウイルスによるラムゼイ・ハント症候群を考える。

ア：正しい。この説明が「ラムゼイ・ハント症候群」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「ベル麻痺」を評価するための説明であり、今回の「ラムゼイ・ハント症候群」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「三叉神経痛」を評価するための説明であり、今回の「ラムゼイ・ハント症候群」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「緊張型頭痛」を評価するための説明であり、今回の「ラムゼイ・ハント症候群」を支持する根拠にはならない。

総合解説：顔面神経麻痺に耳痛と耳介・外耳道周囲の疱疹を伴う場合、帯状疱疹ウイルスによるラムゼイ・ハント症候群を考える。顔面神経麻痺に耳痛と耳介・外耳道周囲の疱疹を伴う場合、帯状疱疹ウイルスによるラムゼイ・ハント症候群を考える。

Q106

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：基礎

顔面神経の論点「角膜保護」について、「角膜乾燥・損傷を防ぐため眼の保護について医療連携を含め対応する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．閉眼不全は角膜障害のリスクとなる。

イ．閉眼不全では角膜乾燥や角膜障害の危険があるため、眼保護と必要な医療評価が重要である。

ウ．眼球への刺激は行わない。

エ．眼輪筋麻痺による閉眼不全は重要な合併症管理項目である。

答え・4肢解説

正答：イ．閉眼不全では角膜乾燥や角膜障害の危険があるため、眼保護と必要な医療評価が重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「閉眼できなくても眼合併症は起こらないと説明する。」を評価するための説明であり、今回の「角膜乾燥・損傷を防ぐため眼の保護について医療連携を含め対応する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「角膜乾燥・損傷を防ぐため眼の保護について医療連携を含め対応する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「眼球へ直接刺激して閉眼を促す。」を評価するための説明であり、今回の「角膜乾燥・損傷を防ぐため眼の保護について医療連携を含め対応する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「眼の症状は顔面神経麻痺と無関係として評価しない。」を評価するための説明であり、今回の「角膜乾燥・損傷を防ぐため眼の保護について医療連携を含め対応する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：閉眼不全では角膜乾燥や角膜障害の危険があるため、眼保護と必要な医療評価が重要である。閉眼不全では角膜乾燥や角膜障害の危険があるため、眼保護と必要な医療評価が重要である。

Q107

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：基礎

顔面神経の論点「味覚・聴覚過敏」について、「舌前方の味覚低下や聴覚過敏」が適切とされる根拠はどれか。

ア：下肢振動覚は顔面神経支配ではない。

イ：「視野の同名半盲のみ」について、同名半盲は視覚路の障害を考える。

ウ：顔面神経は鼓索神経を介する味覚、アブミ骨筋枝などにも関係するため、部位により味覚障害や聴覚過敏を伴う。

エ：膝蓋腱反射は腰髄・大腿神経系の反射である。

答え・4肢解説

正答：ウ。顔面神経は鼓索神経を介する味覚、アブミ骨筋枝などにも関係するため、部位により味覚障害や聴覚過敏を伴う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「下肢の振動覚だけの消失」を評価するための説明であり、今回の「舌前方の味覚低下や聴覚過敏」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「視野の同名半盲のみ」を評価するための説明であり、今回の「舌前方の味覚低下や聴覚過敏」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「舌前方の味覚低下や聴覚過敏」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「膝蓋腱反射の消失だけ」を評価するための説明であり、今回の「舌前方の味覚低下や聴覚過敏」を支持する根拠にはならない。

総合解説：顔面神経は鼓索神経を介する味覚、アブミ骨筋枝などにも関係するため、部位により味覚障害や聴覚過敏を伴う。顔面神経は鼓索神経を介する味覚、アブミ骨筋枝などにも関係するため、部位により味覚障害や聴覚過敏を伴う。

Q108

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：標準

顔面神経の論点「早期医療評価」について、「原因鑑別と早期治療の必要性を考え、まず医療機関での評価を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

ア：鍼灸師が原因疾患を確定診断して医療評価を省くことは適切でない。

イ：治療開始時期が重要な疾患を含むため遅延させない。

ウ：麻痺範囲と随伴症状の評価を先に行う。

エ：急性顔面麻痺はベル麻痺、ハント症候群、中枢性病変などの鑑別が必要で、早期医療評価が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ。急性顔面麻痺はベル麻痺、ハント症候群、中枢性病変などの鑑別が必要で、早期医療評価が重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「鍼灸だけで診断を確定して医療受診を不要とする。」を評価するための説明であり、今回の「原因鑑別と早期治療の必要性を考え、まず医療機関での評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「麻痺が自然に治ると断定し1か月待つ。」を評価するための説明であり、今回の「原因鑑別と早期治療の必要性を考え、まず医療機関での評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「左右差の評価をせず強刺激を開始する。」を評価するための説明であり、今回の「原因鑑別と早期治療の必要性を考え、まず医療機関での評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「原因鑑別と早期治療の必要性を考え、まず医療機関での評価を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：急性顔面麻痺はベル麻痺、ハント症候群、中枢性病変などの鑑別が必要で、早期医療評価が重要である。急性顔面麻痺はベル麻痺、ハント症候群、中枢性病変などの鑑別が必要で、早期医療評価が重要である。

Q109

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：標準

顔面神経の論点「風邪外襲」について、「風邪が経絡を侵襲し、気血の運行を阻滞している。」が適切とされる根拠はどれか。

ア：急性発症と外感所見を伴う顔面麻痺では、風邪が経絡を侵襲して気血運行を妨げる病態として捉えることがある。

イ：腎陰虚は慢性的な陰液不足の所見が中心で、この急性外感像とは合わない。

ウ：脾気虚だけでは急性の顔面麻痺と外感所見を説明しにくい。

エ：不眠単独の病証ではない。

答え・4肢解説

正答：ア：急性発症と外感所見を伴う顔面麻痺では、風邪が経絡を侵襲して気血運行を妨げる病態として捉えることがある。

ア：正しい。この説明が「風邪が経絡を侵襲し、気血の運行を阻滞している。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陰虚による虚熱だけで説明する。」を評価するための説明であり、今回の「風邪が経絡を侵襲し、気血の運行を阻滞している。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚による慢性的な水湿停滞だけで説明する。」を評価するための説明であり、今回の「風邪が経絡を侵襲し、気血の運行を阻滞している。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心血虚による不眠だけで説明する。」を評価するための説明であり、今回の「風邪が経絡を侵襲し、気血の運行を阻滞している。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：急性発症と外感所見を伴う顔面麻痺では、風邪が経絡を侵襲して気血運行を妨げる病態として捉えることがある。急性発症と外感所見を伴う顔面麻痺では、風邪が経絡を侵襲して気血運行を妨げる病態として捉えることがある。

Q110

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：応用

顔面神経の論点「気血不足」について、「気血不足」が適切とされる根拠はどれか。

ア：肝火上炎では頭痛、目の充血、怒りやすさなど熱性所見が中心となる。

イ：遷延する筋力低下に疲労・淡白な顔色・淡舌を伴う場合、気血不足として捉えることがある。

ウ：胃実熱では強い口渇、口臭、歯肉腫痛などがみられやすい。

エ：湿熱下注では排尿・帯下など下焦の湿熱所見が中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ：遷延する筋力低下に疲労・淡白な顔色・淡舌を伴う場合、気血不足として捉えることがある。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「気血不足」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「気血不足」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「胃実熱」を評価するための説明であり、今回の「気血不足」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「湿熱下注」を評価するための説明であり、今回の「気血不足」を支持する根拠にはならない。

総合解説：遷延する筋力低下に疲労・淡白な顔色・淡舌を伴う場合、気血不足として捉えることがある。遷延する筋力低下に疲労・淡白な顔色・淡舌を伴う場合、気血不足として捉えることがある。

Q111

4-4 神経 > 顔面神経 | 難易度：応用

顔面神経の論点「局所穴と遠隔穴」について、「顔面の局所穴に加え、病証や関連経脈を踏まえて遠隔穴を選ぶ。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．刺激量は病期・反応性に応じて調整する。
- イ．顔面部では解剖学的安全性を厳守する。
- ウ．局所の麻痺部位だけでなく、経脈・病証・病期を統合して局所穴と遠隔穴を選択する。
- エ．随伴症状は原因鑑別や治療計画に重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ．局所の麻痺部位だけでなく、経脈・病証・病期を統合して局所穴と遠隔穴を選択する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「病期や麻痺程度に関係なく全例で同じ強刺激を行う。」を評価するための説明であり、今回の「顔面の局所穴に加え、病証や関連経脈を踏まえて遠隔穴を選ぶ。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「眼球周囲は解剖学的安全性を考えず深刺する。」を評価するための説明であり、今回の「顔面の局所穴に加え、病証や関連経脈を踏まえて遠隔穴を選ぶ。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「顔面の局所穴に加え、病証や関連経脈を踏まえて遠隔穴を選ぶ。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「顔面麻痺では全身状態や随伴症状を評価しない。」を評価するための説明であり、今回の「顔面の局所穴に加え、病証や関連経脈を踏まえて遠隔穴を選ぶ。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：局所の麻痺部位だけでなく、経脈・病証・病期を統合して局所穴と遠隔穴を選択する。局所の麻痺部位だけでなく、経脈・病証・病期を統合して局所穴と遠隔穴を選択する。

Q112

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：基礎

自律神経の論点「起立時めまい」について、「臥位・立位での血圧や脈拍の変化」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．東洋医学的診察だけでは循環動態の評価を代替できない。
- イ．肩関節可動域は起立性循環障害の主要評価ではない。
- ウ．爪の長さは起立時症状の原因評価にならない。
- エ．起立時症状では姿勢変化に伴う血圧・脈拍変化を含め、循環動態を客観的に評価することが重要である。

答え・4肢解説

正答：エ．起立時症状では姿勢変化に伴う血圧・脈拍変化を含め、循環動態を客観的に評価することが重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「舌の色だけ」を評価するための説明であり、今回の「臥位・立位での血圧や脈拍の変化」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「肩関節可動域だけ」を評価するための説明であり、今回の「臥位・立位での血圧や脈拍の変化」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「足趾の爪の長さだけ」を評価するための説明であり、今回の「臥位・立位での血圧や脈拍の変化」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「臥位・立位での血圧や脈拍の変化」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：起立時症状では姿勢変化に伴う血圧・脈拍変化を含め、循環動態を客観的に評価することが重要である。起立時症状では姿勢変化に伴う血圧・脈拍変化を含め、循環動態を客観的に評価することが重要である。

Q113

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：応用

自律神経の論点「心原性失神レッドフラッグ」について、「心原性失神の可能性を考え、医療機関での評価を優先する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．労作時失神や胸痛・動悸を伴う失神では重篤な心疾患を除外する必要がある。
- イ．「自律神経」の名称で重篤な循環器疾患を見逃してはならない。
- ウ．東洋医学的弁証より緊急性の評価を先行する。
- エ．一回でも高リスク所見を伴えば精査が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア．労作時失神や胸痛・動悸を伴う失神では重篤な心疾患を除外する必要がある。

ア：正しい。この説明が「心原性失神の可能性を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「自律神経失調として鍼灸だけで経過を見る。」を評価するための説明であり、今回の「心原性失神の可能性を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肝気鬱結と決めつけ医療評価を行わない。」を評価するための説明であり、今回の「心原性失神の可能性を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「失神が一度なら安全と判断する。」を評価するための説明であり、今回の「心原性失神の可能性を考え、医療機関での評価を優先する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：労作時失神や胸痛・動悸を伴う失神では重篤な心疾患を除外する必要がある。労作時失神や胸痛・動悸を伴う失神では重篤な心疾患を除外する必要がある。

Q114

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：標準

自律神経の論点「不整脈の疑い」について、「不整脈などを考え、循環器系の医療評価を勧める。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．動悸には不整脈、甲状腺疾患、貧血など多様な原因がある。
- イ．著明な不整脈とめまいは心房細動など循環器疾患を含め医療評価が必要となる。
- ウ．東洋医学的脈診は心電図等の医療評価を代替しない。
- エ．原因評価をせず強刺激を優先しない。

答え・4肢解説

正答：イ．著明な不整脈とめまいは心房細動など循環器疾患を含め医療評価が必要となる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「すべて精神的緊張によると説明する。」を評価するための説明であり、今回の「不整脈などを考え、循環器系の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「不整脈などを考え、循環器系の医療評価を勧める。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「脈診だけで不整脈を否定する。」を評価するための説明であり、今回の「不整脈などを考え、循環器系の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「強刺激で脈を整えることを優先する。」を評価するための説明であり、今回の「不整脈などを考え、循環器系の医療評価を勧める。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：著明な不整脈とめまいは心房細動など循環器疾患を含め医療評価が必要となる。著明な不整脈とめまいは心房細動など循環器疾患を含め医療評価が必要となる。

Q115

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：基礎

自律神経の論点「過換気と除外診断」について、「過換気が疑われても、呼吸器・循環器など器質的疾患の可能性を確認する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．心理的誘因だけで器質疾患を除外できない。

イ．胸痛などの警告症状があれば医療評価が必要である。

ウ．過換気様症状は心因性の場合もあるが、肺塞栓・喘息・心疾患などの鑑別を踏まえる必要がある。

エ．客観的なバイタル評価は適否判断に有用である。

答え・4肢解説

正答：ウ．過換気様症状は心因性の場合もあるが、肺塞栓・喘息・心疾患などの鑑別を踏まえる必要がある。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「不安があれば必ず心因性と断定する。」を評価するための説明であり、今回の「過換気が疑われても、呼吸器・循環器など器質的疾患の可能性を確認する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「胸痛があっても医療評価は不要である。」を評価するための説明であり、今回の「過換気が疑われても、呼吸器・循環器など器質的疾患の可能性を確認する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「過換気が疑われても、呼吸器・循環器など器質的疾患の可能性を確認する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「酸素飽和度など客観的所見は確認しない。」を評価するための説明であり、今回の「過換気が疑われても、呼吸器・循環器など器質的疾患の可能性を確認する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：過換気様症状は心因性の場合もあるが、肺塞栓・喘息・心疾患などの鑑別を踏まえる必要がある。過換気様症状は心因性の場合もあるが、肺塞栓・喘息・心疾患などの鑑別を踏まえる必要がある。

Q116

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：基礎

自律神経の論点「交感神経活動」について、「心拍数の増加」が適切とされる根拠はどれか。

ア．消化管活動は一般に抑制方向となる。

イ．交感神経では瞳孔は散大方向となる。

ウ．気管支は拡張方向となる。

エ．交感神経活動の亢進では心拍数増加、瞳孔散大、気管支拡張などが生じる。

答え・4肢解説

正答：エ．交感神経活動の亢進では心拍数増加、瞳孔散大、気管支拡張などが生じる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「消化管運動の亢進のみ」を評価するための説明であり、今回の「心拍数の増加」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「瞳孔の縮小のみ」を評価するための説明であり、今回の「心拍数の増加」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「気管支の強い収縮のみ」を評価するための説明であり、今回の「心拍数の増加」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「心拍数の増加」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：交感神経活動の亢進では心拍数増加、瞳孔散大、気管支拡張などが生じる。交感神経活動の亢進では心拍数増加、瞳孔散大、気管支拡張などが生じる。

Q117

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：基礎

自律神経の論点「副交感神経活動」について、「消化管運動の促進」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．副交感神経は消化管運動・分泌の促進や心拍数低下など休息・消化に関与する。
- イ．心拍数は一般に低下方向となる。
- ウ．副交感神経は瞳孔縮小に関与する。
- エ．全身の発汗は主に交感神経系に関与する。

答え・4肢解説

正答：ア．副交感神経は消化管運動・分泌の促進や心拍数低下など休息・消化に関与する。

ア：正しい。この説明が「消化管運動の促進」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「心拍数の著明な増加」を評価するための説明であり、今回の「消化管運動の促進」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「瞳孔散大の促進」を評価するための説明であり、今回の「消化管運動の促進」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「発汗の全身性亢進」を評価するための説明であり、今回の「消化管運動の促進」を支持する根拠にはならない。

総合解説：副交感神経は消化管運動・分泌の促進や心拍数低下など休息・消化に関与する。副交感神経は消化管運動・分泌の促進や心拍数低下など休息・消化に関与する。

Q118

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：標準

自律神経の論点「肝気鬱結」について、「肝気鬱結」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肺気虚では息切れ、弱い声、自汗などが中心となる。
- イ．情志による増悪、胸脇苦満、ため息、弦脈は肝の疏泄失調による肝気鬱結を示す代表的所見である。
- ウ．腎陽虚では腰膝酸軟、冷え、夜間尿などが中心となる。
- エ．血熱では出血傾向や熱性所見が問題となる。

答え・4肢解説

正答：イ．情志による増悪、胸脇苦満、ため息、弦脈は肝の疏泄失調による肝気鬱結を示す代表的所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気鬱結」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「肝気鬱結」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気鬱結」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「血熱」を評価するための説明であり、今回の「肝気鬱結」を支持する根拠にはならない。

総合解説：情志による増悪、胸脇苦満、ため息、弦脈は肝の疏泄失調による肝気鬱結を示す代表的所見である。情志による増悪、胸脇苦満、ため息、弦脈は肝の疏泄失調による肝気鬱結を示す代表的所見である。

Q119

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：応用

自律神経の論点「心脾両虚」について、「心脾両虚」が適切とされる根拠はどれか。

ア．肝胆湿熱では口苦、脇痛、黄膩苔など湿熱所見が中心となる。

イ．胃火亢盛では強い口渇、口臭、歯肉腫痛など実熱所見が中心となる。

ウ．心血不足による動悸・不眠と、脾気虚による食欲低下・疲労が併存する像は心脾両虚に合う。

エ．風寒束表は急性の悪寒・発熱・無汗など外感表証である。

答え・4肢解説

正答：ウ．心血不足による動悸・不眠と、脾気虚による食欲低下・疲労が併存する像は心脾両虚に合う。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝胆湿熱」を評価するための説明であり、今回の「心脾両虚」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「胃火亢盛」を評価するための説明であり、今回の「心脾両虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「心脾両虚」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒束表」を評価するための説明であり、今回の「心脾両虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：心血不足による動悸・不眠と、脾気虚による食欲低下・疲労が併存する像は心脾両虚に合う。心血不足による動悸・不眠と、脾気虚による食欲低下・疲労が併存する像は心脾両虚に合う。

Q120

4-4 神経 > 自律神経 | 難易度：応用

自律神経の論点「ラベル診断の回避」について、「「自律神経失調」と一括せず、症状ごとに器質疾患・薬剤・生活要因と東洋医学的病証を整理する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．多彩な症状ほど系統的な鑑別が必要である。

イ．「すべて肝気鬱結で説明できると決めつける。」について、同一症状群でも病証や原因は複数あり得る。

ウ．東洋医学的診察は必要な医療検査を代替しない。

エ．多彩な自律神経様症状では、現代医学的鑑別と東洋医学的病態把握を並行し、危険な原因を見逃さないことが重要である。

答え・4肢解説

正答：エ．多彩な自律神経様症状では、現代医学的鑑別と東洋医学的病態把握を並行し、危険な原因を見逃さないことが重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「複数症状があれば検査や鑑別は不要とする。」を評価するための説明であり、今回の「「自律神経失調」と一括せず、症状ごとに器質疾患・薬剤・生活要因と東洋医学的病証を整理する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「すべて肝気鬱結で説明できると決めつける。」を評価するための説明であり、今回の「「自律神経失調」と一括せず、症状ごとに器質疾患・薬剤・生活要因と東洋医学的病証を整理する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「脈診だけで循環器・内分泌疾患を否定する。」を評価するための説明であり、今回の「「自律神経失調」と一括せず、症状ごとに器質疾患・薬剤・生活要因と東洋医学的病証を整理する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「「自律神経失調」と一括せず、症状ごとに器質疾患・薬剤・生活要因と東洋医学的病証を整理する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：多彩な自律神経様症状では、現代医学的鑑別と東洋医学的病態把握を並行し、危険な原因を見逃さないことが重要である。多彩な自律神経様症状では、現代医学的鑑別と東洋医学的病態把握を並行し、危険な原因を見逃さないことが重要である。

Q121

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：基礎

証決定の論点「表証の判定」について、「表証」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．急性の外感症状と浮脈は病位が体表にある表証を示す。
- イ．裏証は臓腑など身体内部の病変を示す。
- ウ．表裏と虚実とは別の軸で判断する。
- エ．陰虚は慢性の陰液不足に伴う虚熱所見が中心である。

答え・4肢解説

正答：ア．急性の外感症状と浮脈は病位が体表にある表証を示す。

ア：正しい。この説明が「表証」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「裏証」を評価するための説明であり、今回の「表証」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「虚証のみ」を評価するための説明であり、今回の「表証」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「陰虚証のみ」を評価するための説明であり、今回の「表証」を支持する根拠にはならない。

総合解説：急性の外感症状と浮脈は病位が体表にある表証を示す。急性の外感症状と浮脈は病位が体表にある表証を示す。

Q122

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：基礎

証決定の論点「寒証の判定」について、「寒証」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．熱証では熱感、口渴、赤舌などがみられやすい。
- イ．冷え、温めて軽減、口渴の乏しさ、淡湿舌は寒証を支持する。
- ウ．血熱では出血や熱性所見が問題となる。
- エ．陰虚火旺では五心煩熱、盗汗、紅舌少苔などを伴いやすい。

答え・4肢解説

正答：イ．冷え、温めて軽減、口渴の乏しさ、淡湿舌は寒証を支持する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「熱証」を評価するための説明であり、今回の「寒証」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「寒証」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「血熱証」を評価するための説明であり、今回の「寒証」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「陰虚火旺」を評価するための説明であり、今回の「寒証」を支持する根拠にはならない。

総合解説：冷え、温めて軽減、口渴の乏しさ、淡湿舌は寒証を支持する。冷え、温めて軽減、口渴の乏しさ、淡湿舌は寒証を支持する。

Q123

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：基礎

証決定の論点「虚証の判定」について、「気虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．気滞では張る痛み、ため息、症状の変動などが中心となる。
- イ．血瘀では固定痛、刺痛、暗紫舌などが特徴となる。
- ウ．疲労、息切れ、自汗、無力な声、弱脈は気の不足を示す気虚の代表所見である。
- エ．実熱では高熱、強い口渇、赤舌、洪数脈などがみられやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ．疲労、息切れ、自汗、無力な声、弱脈は気の不足を示す気虚の代表所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「気滞」を評価するための説明であり、今回の「気虚」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「血瘀」を評価するための説明であり、今回の「気虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「気虚」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「実熱」を評価するための説明であり、今回の「気虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：疲労、息切れ、自汗、無力な声、弱脈は気の不足を示す気虚の代表所見である。疲労、息切れ、自汗、無力な声、弱脈は気の不足を示す気虚の代表所見である。

Q124

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：標準

証決定の論点「情志と気滞」について、「肝気鬱結」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．脾気虚では食欲低下、軟便、疲労など不足の所見が中心となる。
- イ．腎陰虚では腰膝酸軟、耳鳴、盗汗などが中心となる。
- ウ．肺気虚では息切れ、弱い声、自汗などが中心となる。
- エ．情志による増悪、胸脇の張り、ため息、症状の変動は肝気鬱結を示す。

答え・4肢解説

正答：エ．情志による増悪、胸脇の張り、ため息、症状の変動は肝気鬱結を示す。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「脾気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気鬱結」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎陰虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気鬱結」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺気虚」を評価するための説明であり、今回の「肝気鬱結」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「肝気鬱結」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：情志による増悪、胸脇の張り、ため息、症状の変動は肝気鬱結を示す。情志による増悪、胸脇の張り、ため息、症状の変動は肝気鬱結を示す。

Q125

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：標準

証決定の論点「消化と疲労」について、「脾気虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．消化機能低下、軟便、疲労、淡胖・歯痕舌は脾気虚を支持する。
- イ．胃火では口渇、口臭、歯肉腫痛など熱性所見が中心となる。
- ウ．肝陽上亢では頭痛、めまい、怒りやすさなど上亢所見が中心となる。
- エ．心火亢盛では心煩、不眠、口舌生瘡など熱性所見が中心となる。

答え・4肢解説

正答：ア．消化機能低下、軟便、疲労、淡胖・歯痕舌は脾気虚を支持する。

ア：正しい。この説明が「脾気虚」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「胃火」を評価するための説明であり、今回の「脾気虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肝陽上亢」を評価するための説明であり、今回の「脾気虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「心火亢盛」を評価するための説明であり、今回の「脾気虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：消化機能低下、軟便、疲労、淡胖・歯痕舌は脾気虚を支持する。消化機能低下、軟便、疲労、淡胖・歯痕舌は脾気虚を支持する。

Q126

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：標準

証決定の論点「冷えと腰膝酸軟」について、「腎陽虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．腎陰虚ではほてり、盗汗、口乾、紅舌少苔など虚熱所見を伴いやすい。
- イ．腰膝酸軟、冷え、夜間尿、淡胖舌、沈遅脈は腎陽虚に合致する。
- ウ．肝火上炎では頭痛、目赤、易怒など実熱所見が中心となる。
- エ．肺熱では咳、黄痰、発熱などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．腰膝酸軟、冷え、夜間尿、淡胖舌、沈遅脈は腎陽虚に合致する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎陰虚」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「腎陽虚」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「肺熱」を評価するための説明であり、今回の「腎陽虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：腰膝酸軟、冷え、夜間尿、淡胖舌、沈遅脈は腎陽虚に合致する。腰膝酸軟、冷え、夜間尿、淡胖舌、沈遅脈は腎陽虚に合致する。

Q127

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：標準

証決定の論点「虚熱と腎虚」について、「腎陰虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．腎陽虚では冷え、淡舌、沈遅脈など寒性所見が中心となる。
- イ．脾陽虚では腹部冷痛、軟便、浮腫などが中心となる。
- ウ．腎の不足所見に盗汗・五心煩熱・紅舌少苔・細数脈など虚熱を伴うため腎陰虚が考えやすい。
- エ．風寒束表は急性の外感表寒証である。

答え・4肢解説

正答：ウ．腎の不足所見に盗汗・五心煩熱・紅舌少苔・細数脈など虚熱を伴うため腎陰虚が考えやすい。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎陽虚」を評価するための説明であり、今回の「腎陰虚」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「脾陽虚」を評価するための説明であり、今回の「腎陰虚」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「腎陰虚」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「風寒束表」を評価するための説明であり、今回の「腎陰虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：腎の不足所見に盗汗・五心煩熱・紅舌少苔・細数脈など虚熱を伴うため腎陰虚が考えやすい。腎の不足所見に盗汗・五心煩熱・紅舌少苔・細数脈など虚熱を伴うため腎陰虚が考えやすい。

Q128

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：標準

証決定の論点「固定性刺痛」について、「血瘀」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．血虚では顔色不良、めまい、動悸、淡舌など不足所見が中心となる。
- イ．気虚では疲労、息切れ、自汗などが中心となる。
- ウ．津液不足では乾燥・口渴などが中心となる。
- エ．固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示す代表的な所見である。

答え・4肢解説

正答：エ．固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示す代表的な所見である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「血虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「気虚」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「津液不足」を評価するための説明であり、今回の「血瘀」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「血瘀」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示す代表的な所見である。固定性刺痛、夜間増悪、瘀斑は血瘀を示す代表的な所見である。

Q129

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：標準

証決定の論点「痰湿内阻」について、「痰湿」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．身体の重さ、痰、膩苔、滑脈は痰湿・水湿の停滞を示す。
- イ．血燥では皮膚乾燥など乾燥所見が中心となる。
- ウ．気脱は大量出血や重篤な虚脱など緊急性の高い状態である。
- エ．陰盛格陽は重篤な真寒假熱の病態であり、この所見とは異なる。

答え・4肢解説

正答：ア．身体の重さ、痰、膩苔、滑脈は痰湿・水湿の停滞を示す。

ア：正しい。この説明が「痰湿」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「血燥」を評価するための説明であり、今回の「痰湿」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「気脱」を評価するための説明であり、今回の「痰湿」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「陰盛格陽」を評価するための説明であり、今回の「痰湿」を支持する根拠にはならない。

総合解説：身体の重さ、痰、膩苔、滑脈は痰湿・水湿の停滞を示す。身体の重さ、痰、膩苔、滑脈は痰湿・水湿の停滞を示す。

Q130

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：標準

証決定の論点「心血不足」について、「心血虚」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．心火亢盛では心煩、口舌生瘡、赤舌など熱証が中心となる。
- イ．動悸・不眠に血虚所見である淡白な顔色、淡舌、細脈を伴うため心血虚が考えやすい。
- ウ．痰火擾心では痰熱や精神興奮など実性所見が強い。
- エ．肝火上炎では頭痛、目赤、易怒などが中心となる。

答え・4肢解説

正答：イ．動悸・不眠に血虚所見である淡白な顔色、淡舌、細脈を伴うため心血虚が考えやすい。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「心火亢盛」を評価するための説明であり、今回の「心血虚」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「心血虚」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「痰火擾心」を評価するための説明であり、今回の「心血虚」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「肝火上炎」を評価するための説明であり、今回の「心血虚」を支持する根拠にはならない。

総合解説：動悸・不眠に血虚所見である淡白な顔色、淡舌、細脈を伴うため心血虚が考えやすい。動悸・不眠に血虚所見である淡白な顔色、淡舌、細脈を伴うため心血虚が考えやすい。

Q131

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：応用

証決定の論点「証の変化」について、「現在の所見で再弁証し、治法を見直す。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．証を固定すると現在の病態と治療がずれる可能性がある。
- イ．所見の変化に応じて配穴や刺激量を見直す。
- ウ．病証は病期や治療反応で変化し得るため、経時的に再評価して治法を調整する。
- エ．四診の変化は再弁証の重要な情報となる。

答え・4肢解説

正答：ウ．病証は病期や治療反応で変化し得るため、経時的に再評価して治法を調整する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「初診時の証を最後まで固定する。」を評価するための説明であり、今回の「現在の所見で再弁証し、治法を見直す。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「症状が変わっても配穴は一切変更しない。」を評価するための説明であり、今回の「現在の所見で再弁証し、治法を見直す。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「現在の所見で再弁証し、治法を見直す。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「脈や舌の変化は治療計画に反映しない。」を評価するための説明であり、今回の「現在の所見で再弁証し、治法を見直す。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：病証は病期や治療反応で変化し得るため、経時的に再評価して治法を調整する。病証は病期や治療反応で変化し得るため、経時的に再評価して治法を調整する。

Q132

4-5 弁証施治 > 証決定 | 難易度：応用

証決定の論点「同病異治」について、「症状名が同じでも病証が異なれば治法・配穴は変わり得る。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．「症状名が同じなら証に関係なく同一治療とする。」について、同一症状にも複数の病証がある。
- イ．安全な臨床では現代医学的な鑑別と適否判断も必要である。
- ウ．治療反応を評価し計画を修正する。
- エ．弁証施治では症状名だけでなく病因・病機・虚実寒熱などを評価し、証に応じて治療を変える。

答え・4肢解説

正答：エ．弁証施治では症状名だけでなく病因・病機・虚実寒熱などを評価し、証に応じて治療を変える。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「症状名が同じなら証に関係なく同一治療とする。」を評価するための説明であり、今回の「症状名が同じでも病証が異なれば治法・配穴は変わり得る。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「西洋医学的鑑別は弁証施治では不要である。」を評価するための説明であり、今回の「症状名が同じでも病証が異なれば治法・配穴は変わり得る。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「一度配穴を決めたら反応に関係なく固定する。」を評価するための説明であり、今回の「症状名が同じでも病証が異なれば治法・配穴は変わり得る。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「症状名が同じでも病証が異なれば治法・配穴は変わり得る。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：弁証施治では症状名だけでなく病因・病機・虚実寒熱などを評価し、証に応じて治療を変える。弁証施治では症状名だけでなく病因・病機・虚実寒熱などを評価し、証に応じて治療を変える。

Q133

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：基礎

配穴の論点「局所遠隔配穴」について、「局所の反応点・経穴と、関連経脈や病証に基づく遠隔穴を組み合わせる。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．局所病態と全身の病証を同時に考え、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが多い。
- イ．局所だけでは全身病証への対応が不足することがある。
- ウ．局所所見への治療も必要に応じて考慮する。
- エ．「疾患名だけで全例同一穴に固定する。」について、同じ疾患名でも病証・経脈・患者状態は異なる。

答え・4肢解説

正答：ア．局所病態と全身の病証を同時に考え、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが多い。

ア：正しい。この説明が「局所の反応点・経穴と、関連経脈や病証に基づく遠隔穴を組み合わせる。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「必ず局所穴だけで構成する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の反応点・経穴と、関連経脈や病証に基づく遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「必ず遠隔穴だけで構成する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の反応点・経穴と、関連経脈や病証に基づく遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「疾患名だけで全例同一穴に固定する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の反応点・経穴と、関連経脈や病証に基づく遠隔穴を組み合わせる。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：局所病態と全身の病証を同時に考え、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが多い。局所病態と全身の病証を同時に考え、局所穴と遠隔穴を組み合わせることが多い。

Q134

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：基礎

配穴の論点「胃の兪募配穴」について、「胃兪と中脘」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．腎兪と関元は腎・下焦の病証で用いられる組合せである。
- イ．胃兪は胃の背部兪穴、中脘は胃の募穴であり、胃の病証で兪募配穴として組み合わせられる。
- ウ．肺兪と中府は肺の兪募配穴である。
- エ．肝兪と期門は肝の兪募配穴である。

答え・4肢解説

正答：イ．胃兪は胃の背部兪穴、中脘は胃の募穴であり、胃の病証で兪募配穴として組み合わせられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「腎兪と関元」を評価するための説明であり、今回の「胃兪と中脘」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「胃兪と中脘」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺兪と中府」を評価するための説明であり、今回の「胃兪と中脘」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「肝兪と期門」を評価するための説明であり、今回の「胃兪と中脘」を支持する根拠にはならない。

総合解説：胃兪は胃の背部兪穴、中脘は胃の募穴であり、胃の病証で兪募配穴として組み合わせられる。胃兪は胃の背部兪穴、中脘は胃の募穴であり、胃の病証で兪募配穴として組み合わせられる。

Q135

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：標準

配穴の論点「四関」について、「合谷と太衝」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肺俞・列欠は肺系の病証で用いられやすい。
- イ．腎俞・復溜は腎の病証で用いられやすい。
- ウ．合谷と太衝は四関穴として気血の巡りを調整する目的で用いられる代表的な組合せである。
- エ．大腸俞・上巨虚は大腸系の病証で用いられやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ．合谷と太衝は四関穴として気血の巡りを調整する目的で用いられる代表的な組合せである。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肺俞と列欠」を評価するための説明であり、今回の「合谷と太衝」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「腎俞と復溜」を評価するための説明であり、今回の「合谷と太衝」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「合谷と太衝」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「大腸俞と上巨虚」を評価するための説明であり、今回の「合谷と太衝」を支持する根拠にはならない。

総合解説：合谷と太衝は四関穴として気血の巡りを調整する目的で用いられる代表的な組合せである。合谷と太衝は四関穴として気血の巡りを調整する目的で用いられる代表的な組合せである。

Q136

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：標準

配穴の論点「補脾益気」について、「脾俞と足三里」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肝俞・行間は肝の病証、とくに肝火などで考慮される。
- イ．心俞・少府は心の病証で用いられる。
- ウ．胆俞・陽陵泉は胆・少陽系の病証との関連が強い。
- エ．脾俞は脾の背部俞穴、足三里は脾胃を調える代表穴として補脾益気に用いられる。

答え・4肢解説

正答：エ．脾俞は脾の背部俞穴、足三里は脾胃を調える代表穴として補脾益気に用いられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肝俞と行間」を評価するための説明であり、今回の「脾俞と足三里」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「心俞と少府」を評価するための説明であり、今回の「脾俞と足三里」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「胆俞と陽陵泉だけ」を評価するための説明であり、今回の「脾俞と足三里」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「脾俞と足三里」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：脾俞は脾の背部俞穴、足三里は脾胃を調える代表穴として補脾益気に用いられる。脾俞は脾の背部俞穴、足三里は脾胃を調える代表穴として補脾益気に用いられる。

Q137

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：標準

配穴の論点「補腎」について、「腎俞と太谿」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．腎俞と腎経の原穴である太谿は、腎虚を補う代表的な組合せである。
- イ．胃俞・内庭は胃の病証に関連する。
- ウ．肺俞・尺沢は肺系の病証で用いられる。
- エ．大腸俞・曲池は大腸経や熱証などで用いられる。

答え・4肢解説

正答：ア．腎俞と腎経の原穴である太谿は、腎虚を補う代表的な組合せである。

ア：正しい。この説明が「腎俞と太谿」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「胃俞と内庭」を評価するための説明であり、今回の「腎俞と太谿」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「肺俞と尺沢」を評価するための説明であり、今回の「腎俞と太谿」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「大腸俞と曲池」を評価するための説明であり、今回の「腎俞と太谿」を支持する根拠にはならない。

総合解説：腎俞と腎経の原穴である太谿は、腎虚を補う代表的な組合せである。腎俞と腎経の原穴である太谿は、腎虚を補う代表的な組合せである。

Q138

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：標準

配穴の論点「活血化瘀」について、「膈俞と血海」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肺俞・太淵は肺気・肺陰など肺系の病証に用いられる。
- イ．膈俞は血会、血海は血分の調整に用いられ、血瘀に対する代表的な組合せの一つである。
- ウ．腎俞・照海は腎系の病証に関連する。
- エ．胃俞・梁丘は胃系症状や急性胃痛などに関連する。

答え・4肢解説

正答：イ．膈俞は血会、血海は血分の調整に用いられ、血瘀に対する代表的な組合せの一つである。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肺俞と太淵」を評価するための説明であり、今回の「膈俞と血海」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「膈俞と血海」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「腎俞と照海」を評価するための説明であり、今回の「膈俞と血海」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「胃俞と梁丘だけ」を評価するための説明であり、今回の「膈俞と血海」を支持する根拠にはならない。

総合解説：膈俞は血会、血海は血分の調整に用いられ、血瘀に対する代表的な組合せの一つである。膈俞は血会、血海は血分の調整に用いられ、血瘀に対する代表的な組合せの一つである。

Q139

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：標準

配穴の論点「安神」について、「神門と内関」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．委中・承山は腰下肢や膀胱経の症状に用いられやすい。
- イ．陽陵泉・丘墟は胆経・筋腱系の症状に関連する。
- ウ．神門は心経の原穴、内関は心包経の絡穴で、動悸・不眠など心神の不調に用いられる。
- エ．天枢・上巨虚は腸管症状に関連する。

答え・4肢解説

正答：ウ．神門は心経の原穴、内関は心包経の絡穴で、動悸・不眠など心神の不調に用いられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「委中と承山」を評価するための説明であり、今回の「神門と内関」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「陽陵泉と丘墟」を評価するための説明であり、今回の「神門と内関」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「神門と内関」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「天枢と上巨虚」を評価するための説明であり、今回の「神門と内関」を支持する根拠にはならない。

総合解説：神門は心経の原穴、内関は心包経の絡穴で、動悸・不眠など心神の不調に用いられる。神門は心経の原穴、内関は心包経の絡穴で、動悸・不眠など心神の不調に用いられる。

Q140

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：応用

配穴の論点「婦人科配穴」について、「関元と三陰交」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．肩井・肩髃は主に頸肩・肩関節領域で用いられる。
- イ．曲池・合谷だけでは下腹部・月経病証への配穴意図が乏しい。
- ウ．陽白・四白は主に顔面部の症状で用いられる。
- エ．関元は下腹部・元気に関係し、三陰交は足三陰経の交会穴として月経関連症状で広く用いられる。

答え・4肢解説

正答：エ．関元は下腹部・元気に関係し、三陰交は足三陰経の交会穴として月経関連症状で広く用いられる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「肩井と肩髃」を評価するための説明であり、今回の「関元と三陰交」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「曲池と合谷だけ」を評価するための説明であり、今回の「関元と三陰交」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「陽白と四白」を評価するための説明であり、今回の「関元と三陰交」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「関元と三陰交」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：関元は下腹部・元気に関係し、三陰交は足三陰経の交会穴として月経関連症状で広く用いられる。関元は下腹部・元気に関係し、三陰交は足三陰経の交会穴として月経関連症状で広く用いられる。

Q141

4-5 弁証施治 > 配穴 | 難易度：応用

配穴の論点「危険部位の取穴」について、「局所の安全性を優先し、他の経穴・方法へ変更する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．配穴理論にかかわらず、感染・組織損傷・臓器損傷等のリスクを評価し安全な代替を選ぶ。

イ．感染部位への刺激は避けるべき場合がある。

ウ．経穴も実際の解剖学的位置に存在し、安全深度・方向の配慮が必要である。

エ．説明と同意、適切な刺激量設定が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア．配穴理論にかかわらず、感染・組織損傷・臓器損傷等のリスクを評価し安全な代替を選ぶ。

ア：正しい。この説明が「局所の安全性を優先し、他の経穴・方法へ変更する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「理論上の配穴なので病変部へ必ず刺激する。」を評価するための説明であり、今回の「局所の安全性を優先し、他の経穴・方法へ変更する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「経穴なら解剖学的危険性は考慮しなくてよい。」を評価するための説明であり、今回の「局所の安全性を優先し、他の経穴・方法へ変更する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「患者に説明せず刺激を強くする。」を評価するための説明であり、今回の「局所の安全性を優先し、他の経穴・方法へ変更する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：配穴理論にかかわらず、感染・組織損傷・臓器損傷等のリスクを評価し安全な代替を選ぶ。配穴理論にかかわらず、感染・組織損傷・臓器損傷等のリスクを評価し安全な代替を選ぶ。

Q142

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：基礎

治療計画の論点「レッドフラッグ優先」について、「重篤疾患を疑う所見や鍼灸の適否・禁忌を確認する。」が適切とされる根拠はどれか。

ア．経穴数より安全性と目的の明確化が先である。

イ．国家試験出題基準でも病態鑑別と適否・禁忌の判断、リスクマネジメントが治療計画の基礎とされる。

ウ．刺激量は患者状態に応じて設定する。

エ．主訴・病歴を含む情報収集が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ．国家試験出題基準でも病態鑑別と適否・禁忌の判断、リスクマネジメントが治療計画の基礎とされる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「経穴数をできるだけ多く決める。」を評価するための説明であり、今回の「重篤疾患を疑う所見や鍼灸の適否・禁忌を確認する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「重篤疾患を疑う所見や鍼灸の適否・禁忌を確認する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「刺激量を最大に設定する。」を評価するための説明であり、今回の「重篤疾患を疑う所見や鍼灸の適否・禁忌を確認する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「患者の主訴を聞かず脈だけで治療を決める。」を評価するための説明であり、今回の「重篤疾患を疑う所見や鍼灸の適否・禁忌を確認する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：国家試験出題基準でも病態鑑別と適否・禁忌の判断、リスクマネジメントが治療計画の基礎とされる。国家試験出題基準でも病態鑑別と適否・禁忌の判断、リスクマネジメントが治療計画の基礎とされる。

Q143

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：標準

治療計画の論点「初期評価」について、「症状の強さ、頻度、機能障害など評価指標の基準値を記録する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．基準値がないと変化の客観評価が難しい。
- イ．患者の生活上の目標は治療計画に重要である。
- ウ．ベースラインを記録しておくことで、治療前後・経時的な変化を比較できる。
- エ．「毎回異なる評価尺度を無作為に使う。」について、同じ指標を継続して使用の方が比較しやすい。

答え・4肢解説

正答：ウ．ベースラインを記録しておくことで、治療前後・経時的な変化を比較できる。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「初診時の状態は記録せず施術後の印象だけで判断する。」を評価するための説明であり、今回の「症状の強さ、頻度、機能障害など評価指標の基準値を記録する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「患者の目標は確認しない。」を評価するための説明であり、今回の「症状の強さ、頻度、機能障害など評価指標の基準値を記録する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「症状の強さ、頻度、機能障害など評価指標の基準値を記録する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「毎回異なる評価尺度を無作為に使う。」を評価するための説明であり、今回の「症状の強さ、頻度、機能障害など評価指標の基準値を記録する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：ベースラインを記録しておくことで、治療前後・経時的な変化を比較できる。ベースラインを記録しておくことで、治療前後・経時的な変化を比較できる。

Q144

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：標準

治療計画の論点「短期・長期目標」について、「短期は痛みと動作制限の軽減、長期は日常活動の回復など具体的に設定する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．断定的で評価期限のない目標は計画管理に不向きである。
- イ．患者が困っている活動为目标へ反映する。
- ウ．再評価可能な具体的目標が望ましい。
- エ．症状だけでなく機能・参加を含め、達成度を評価できる短期・長期目標を設定する。

答え・4肢解説

正答：エ．症状だけでなく機能・参加を含め、達成度を評価できる短期・長期目標を設定する。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「「完全に治す」だけを期限なく掲げる。」を評価するための説明であり、今回の「短期は痛みと動作制限の軽減、長期は日常活動の回復など具体的に設定する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「患者の生活上の困難を考慮しない。」を評価するための説明であり、今回の「短期は痛みと動作制限の軽減、長期は日常活動の回復など具体的に設定する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「評価できない抽象的目標だけにする。」を評価するための説明であり、今回の「短期は痛みと動作制限の軽減、長期は日常活動の回復など具体的に設定する。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「短期は痛みと動作制限の軽減、長期は日常活動の回復など具体的に設定する。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：症状だけでなく機能・参加を含め、達成度を評価できる短期・長期目標を設定する。症状だけでなく機能・参加を含め、達成度を評価できる短期・長期目標を設定する。

Q145

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：標準

治療計画の論点「頻度・刺激量」について、「病態、病期、体力、感受性、治療反応などに応じて調整する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．刺激量と頻度は疾患・症状の程度、患者特性、治療反応などを総合して個別化する。
- イ．患者ごとの病態と反応は異なる。
- ウ．年齢だけで強刺激を選ぶことはできない。
- エ．悪化時は原因評価と計画修正が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア．刺激量と頻度は疾患・症状の程度、患者特性、治療反応などを総合して個別化する。

ア：正しい。この説明が「病態、病期、体力、感受性、治療反応などに応じて調整する。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「全患者を同じ回数・同じ刺激量に固定する。」を評価するための説明であり、今回の「病態、病期、体力、感受性、治療反応などに応じて調整する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「高齢者ほど必ず強刺激にする。」を評価するための説明であり、今回の「病態、病期、体力、感受性、治療反応などに応じて調整する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「症状が悪化しても計画を変えない。」を評価するための説明であり、今回の「病態、病期、体力、感受性、治療反応などに応じて調整する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：刺激量と頻度は疾患・症状の程度、患者特性、治療反応などを総合して個別化する。刺激量と頻度は疾患・症状の程度、患者特性、治療反応などを総合して個別化する。

Q146

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：標準

治療計画の論点「定期再評価」について、「初診時と同じ指標を用いて症状・機能・病証の変化を確認する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．患者報告は重要なアウトカムの一つである。
- イ．治療効果の判定には同一指標での比較と、四診・機能状態などの再評価が重要である。
- ウ．病証は変化し得る。
- エ．治療反応に応じて計画を調整する。

答え・4肢解説

正答：イ．治療効果の判定には同一指標での比較と、四診・機能状態などの再評価が重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「患者の感想を聞かず施術者の印象だけで判断する。」を評価するための説明であり、今回の「初診時と同じ指標を用いて症状・機能・病証の変化を確認する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「初診時と同じ指標を用いて症状・機能・病証の変化を確認する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「治療開始後は証を再評価しない。」を評価するための説明であり、今回の「初診時と同じ指標を用いて症状・機能・病証の変化を確認する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「改善しても悪化しても刺激量を固定する。」を評価するための説明であり、今回の「初診時と同じ指標を用いて症状・機能・病証の変化を確認する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：治療効果の判定には同一指標での比較と、四診・機能状態などの再評価が重要である。治療効果の判定には同一指標での比較と、四診・機能状態などの再評価が重要である。

Q147

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：応用

治療計画の論点「計画変更と紹介」について、「治療計画を中断・再検討し、器質的疾患の精査を目的に医療機関へ紹介する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．原因評価なしの刺激増量は安全性を損なう。
- イ．経過に応じた再弁証・再評価が必要である。
- ウ．無効・悪化、進行性神経症状は診断・適否を再評価し、必要な医療連携を行う契機である。
- エ．進行性筋力低下は警告所見であり経過観察だけにしない。

答え・4肢解説

正答：ウ．無効・悪化、進行性神経症状は診断・適否を再評価し、必要な医療連携を行う契機である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「刺激が弱いと考え同じ部位へ強刺激を増やし続ける。」を評価するための説明であり、今回の「治療計画を中断・再検討し、器質的疾患の精査を目的に医療機関へ紹介する。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「初診時の証を変更せず無期限に継続する。」を評価するための説明であり、今回の「治療計画を中断・再検討し、器質的疾患の精査を目的に医療機関へ紹介する。」を支持する根拠にはならない。

ウ：正しい。この説明が「治療計画を中断・再検討し、器質的疾患の精査を目的に医療機関へ紹介する。」を支持する中心的な根拠である。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「進行性筋力低下は治療効果の途中経過とみなす。」を評価するための説明であり、今回の「治療計画を中断・再検討し、器質的疾患の精査を目的に医療機関へ紹介する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：無効・悪化、進行性神経症状は診断・適否を再評価し、必要な医療連携を行う契機である。無効・悪化、進行性神経症状は診断・適否を再評価し、必要な医療連携を行う契機である。

Q148

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：標準

治療計画の論点「インフォームドコンセント」について、「目的、方法、予想される利益と有害事象、代替策などを説明し同意を得る。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．患者への説明は治療計画の重要な要素である。
- イ．予見可能なリスクも適切に説明する。
- ウ．治療目標には患者の価値観・希望を反映する。
- エ．患者が治療を選択できるよう必要な情報を説明し、理解と同意を得ることが重要である。

答え・4肢解説

正答：エ．患者が治療を選択できるよう必要な情報を説明し、理解と同意を得ることが重要である。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「施術者が決めた内容は患者に説明しない。」を評価するための説明であり、今回の「目的、方法、予想される利益と有害事象、代替策などを説明し同意を得る。」を支持する根拠にはならない。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「有害事象の可能性は一切説明しない。」を評価するための説明であり、今回の「目的、方法、予想される利益と有害事象、代替策などを説明し同意を得る。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「治療目標は患者の意向と無関係に決める。」を評価するための説明であり、今回の「目的、方法、予想される利益と有害事象、代替策などを説明し同意を得る。」を支持する根拠にはならない。

エ：正しい。この説明が「目的、方法、予想される利益と有害事象、代替策などを説明し同意を得る。」を支持する中心的な根拠である。

総合解説：患者が治療を選択できるよう必要な情報を説明し、理解と同意を得ることが重要である。患者が治療を選択できるよう必要な情報を説明し、理解と同意を得ることが重要である。

Q149

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：応用

治療計画の論点「生活指導」について、「症状の誘因、睡眠、活動量、食事などを評価し、実行可能な内容を患者と相談して決める。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．生活指導は患者の病態・生活背景・目標に応じ、継続可能で具体的な内容にする。
- イ．画一的指導では実行可能性や適合性が低い。
- ウ．目的を共有し、患者が納得できる内容にする。
- エ．誘因や生活背景の評価が指導内容の基礎となる。

答え・4肢解説

正答：ア．生活指導は患者の病態・生活背景・目標に応じ、継続可能で具体的な内容にする。

ア：正しい。この説明が「症状の誘因、睡眠、活動量、食事などを評価し、実行可能な内容を患者と相談して決める。」を支持する中心的な根拠である。

イ：誤り。この内容は元の選択肢「すべての患者に同一の厳格な生活制限を指示する。」を評価するための説明であり、今回の「症状の誘因、睡眠、活動量、食事などを評価し、実行可能な内容を患者と相談して決める。」を支持する根拠にはならない。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「根拠や目的を説明せず多数の禁止事項を課す。」を評価するための説明であり、今回の「症状の誘因、睡眠、活動量、食事などを評価し、実行可能な内容を患者と相談して決める。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「症状と生活習慣の関連を確認しない。」を評価するための説明であり、今回の「症状の誘因、睡眠、活動量、食事などを評価し、実行可能な内容を患者と相談して決める。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：生活指導は患者の病態・生活背景・目標に応じ、継続可能で具体的な内容にする。
生活指導は患者の病態・生活背景・目標に応じ、継続可能で具体的な内容にする。

Q150

4-5 弁証施治 > 治療計画 | 難易度：応用

治療計画の論点「記録と次回計画」について、「主観的症状、客観所見、評価、実施した施術と反応、次回計画を一貫して記録する。」が適切とされる根拠はどれか。

- ア．経穴名だけでは治療理由や経過を検証できない。
- イ．SOAP等の考え方で所見・評価・施術・反応・計画を記録することは治療効果判定と安全管理に役立つ。
- ウ．継続的な記録は治療計画の見直しに必要である。
- エ．有害反応も記録し、次回の安全な計画へ反映する。

答え・4肢解説

正答：イ．SOAP等の考え方で所見・評価・施術・反応・計画を記録することは治療効果判定と安全管理に役立つ。

ア：誤り。この内容は元の選択肢「使用した経穴名だけを書き、症状や反応を記録しない。」を評価するための説明であり、今回の「主観的症状、客観所見、評価、実施した施術と反応、次回計画を一貫して記録する。」を支持する根拠にはならない。

イ：正しい。この説明が「主観的症状、客観所見、評価、実施した施術と反応、次回計画を一貫して記録する。」を支持する中心的な根拠である。

ウ：誤り。この内容は元の選択肢「毎回記録を残さず記憶だけで計画する。」を評価するための説明であり、今回の「主観的症状、客観所見、評価、実施した施術と反応、次回計画を一貫して記録する。」を支持する根拠にはならない。

エ：誤り。この内容は元の選択肢「悪化した有害反応は記録しない。」を評価するための説明であり、今回の「主観的症状、客観所見、評価、実施した施術と反応、次回計画を一貫して記録する。」を支持する根拠にはならない。

総合解説：SOAP等の考え方で所見・評価・施術・反応・計画を記録することは治療効果判定と安全管理に役立つ。 SOAP等の考え方で所見・評価・施術・反応・計画を記録することは治療効果判定と安全管理に役立つ。